

Tdex+ 取引の仕組みについて

2009年10月版(10月5日修正版)

東京証券取引所

目次

1	基本事項	-----	P 4
2	約定処理の概要	-----	P12
3	ストラテジー取引	-----	P22
4	デルタニュートラル取引	-----	P28
5	インプライド機能	-----	P35
6	マーケットメイカー制度	-----	P46
7	理論価格・清算値段算出の仕組み	-----	P54
8	その他の機能	-----	P58
9	マーケットメイカー専用機能	-----	P66
	別紙	-----	P71

はじめに

- 本資料はTdex+で用意される機能の概要を説明するものです。
- ただし、参加者側システム又はISVシステムによっては、特定機能を実装していない場合もございますのでご注意ください。
- また、各機能の具体的な利用方法も、参加者側システム又はISVシステムによって異なりますので、お使いのシステムの開発元にご確認頂くようお願い致します。

1. 基本事項

注文種類・立会スケジュール・呼値の単位

注文種類

注文形態	内容	ステータス	GTC	IC	CV	MV ※1
指値注文 (Limit Order)	値段を指定して発注する最も基本的な注文です。	寄付前	○	N/A	N/A	N/A
		ザラバ中	○	○	○	◎
成行注文 (Market Order)	全量執行するまで、最良気配値段の注文と対当する注文です。現行との違いとして、反対側に残注文がない場合、もしくは呼値可能値幅の上限(下限)まで買い上がり(売り下がり)した場合には、未執行残注文は自動キャンセルされます。 なお、取引開始前には発注不可なのでご注意ください。	寄付前	N/A			
		ザラバ中	N/A	○ ※2	○	◎
寄付注文 (MOO: Market on Open) ※3	寄付注文(Market on Open): 取引開始前に価格を指定せずに発注し、対当する寄付注文との間で寄付値段で約定される注文。約定残数量は、寄付値段での指値注文となります(詳細は後述)。 GTC寄付注文(Persisted MOO): 未約定数量をGTC条件付の寄付値段の指値に変換されます。	寄付前	○	N/A	N/A	N/A
		ザラバ中	N/A			
バッチ注文	<ul style="list-style-type: none"> ■複数注文を1組として同時発注することができます。 ■単純な指値以外の注文も組み込むことができますが、MOOや成行注文は組み込むことができません。 ■同じオプション銘柄に複数の売り買い注文を発注することもできます。 ■1組のバッチ注文内で即時約定するような注文を組み合わせることはできません。 ■ストラテジー銘柄の発注には利用できません。 					
マーケットメイク注文 (MMO)	バッチ注文と同様に複数注文を同時発注する機能で、マーケットメイカーのみが利用可能です(詳細は後述)。					

※1 MVは他の条件と重ねて付ける事ができます。ただし、MVとCVを重ねて付けた場合はCVが優先されます。

※2 成行注文では残注文はキャンセルされますので、IC条件の有無に関わらず同じ処理が行われます。

※3 2008年12月22日付けのパブリックコメント「新システム導入に伴うオプション取引制度の一部改正について」においては「始値指値注文」という名称を付けておりましたが、当名称に変更する予定です。

注文条件

- 注文条件の説明は下記です。

数量条件	内容
GTC:Good Till Cancel 有効期日指定	<p>注文が有効な日付を指定します。日付はカレンダーベースでみますので、指定日付の午前、午後に加えて翌取引日のイブニングセッションまで有効であることにご注意下さい。</p> <p>日付を指定しない場合は当該オプションが満期を迎えるまで有効となります。</p> <p>デルタニュートラル取引においては、指定した有効期日とは無関係に当日中のみ有効となりますのでご注意ください。</p>
IC:Immediate or Cancel 残数量取消し	即時約定できる数量を全て消化したら、残数量は自動キャンセルされます。
CV:Complete Volume 全量執行	注文発注時に板状況をチェックし、全量執行できる板状況でなかった場合は、注文を受け付けません。
MV:Minimum Volume 最低数量	注文発注時に板状況をチェックし、指定した最低数量以上の反対注文がなかった場合は、注文を受け付けません。

※現行の寄付き条件(指値・成行)、引け条件(指値・成行・不成)、クロス注文(無指定、全量執行、残数取消)はサポートいたしません。

立会スケジュール

- 立会スケジュールは下記となります。

ステータス	取引日	JGB先物オプション		TOPIXオプション		有価証券オプション	
		立会内	ToSTNeT	立会内	ToSTNeT	立会内	ToSTNeT
ログイン可能		2:00					
前場注文受付(Pre-open)	T	8:40 - 9:00	8:20~ 15:10	8:40 - 9:00	8:20~ 16:00	8:40 - 9:00	8:20~ 16:00
前場立会(Open)		9:00 - 11:00		9:00 - 11:00		9:00 - 11:00	
場間(Restricted Open)		11:00 - 12:05		11:00 - 12:05		11:00 - 12:05	
後場注文受付(Pre-open)		12:05 - 12:30		12:05 - 12:30		12:05 - 12:30	
後場立会(Open)		12:30 - 15:00		12:30 - 15:10		12:30 - 15:10	
場間(Closed)	T + 1	15:00 - 15:20	15:30 ~ 18:20	15:10 - 16:20	16:30 ~ 19:10		
イブニング注文受付(Pre-open)		15:20 - 15:30		16:20 - 16:30			
イブニング立会(Open)		15:30 - 18:00		16:30 - 19:00			
システム終了		20:30					

各ステータスの機能概要

- 各ステータスにおける機能は次のとおりです。

Pre-open	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規(成行及び条件付注文以外)・変更・取消し注文が可能です。 ■ 付け合せは行いません。
Open	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規(寄付注文以外)・変更・取消し注文が可能です。 ■ 付け合せを実施します。 ■ RFQの送信が可能です。
Restricted Open	<ul style="list-style-type: none"> ■ 変更(数量削減のみ)・取消し注文が可能です。 ■ 付け合せは行いません。
Closed	<ul style="list-style-type: none"> ■ GTC注文についてのみ、変更・取消し注文が可能です。 ■ 付け合せは行いません。 <p>☆Closedになると、GTC以外の全ての注文が自動的に取り消されます。 (後場終了後のClosedで前後場の注文が、イブ終了後のClosedでイブの注文が取り消されます。)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 全てのステータスにおいて、ログイン・ログオフは可能です。 ■ 全てのステータスにおいて、ストラテジーの生成は可能です。 	

各ステータスの機能概要

- 取引停止に関する機能は次の2つです。

Halt	<p>☆注文が取り消されることなく、そのまま板に残ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■変更(数量削減のみ)・取消し注文が可能です。 ■付け合せは行いません。
Suspend	<p>☆全ての注文(GTC含む)が、強制的に取り消されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全ての注文(新規・変更・取消し)はできません。 ■付け合せは行いません。
<ul style="list-style-type: none"> ■ログイン・ログオフは可能です。 ■ストラテジーの生成は可能です。 	

※ 当取引所が売買停止をする場合には、基本的にはHaltにより売買を停止いたします。

呼値の単位

■ 各商品の呼値テーブルについての注意点

- TOPIXオプションで呼値の単位が20ポイントを境に切り替わるようになります。
- 有価証券オプションについてもオプション価格に応じて呼値の単位が切り替わるようになります。
- インプライド機能によって発生した注文は、ストラテジー呼値と個別銘柄呼値の合算となりますので、本来の呼値の単位以下となる場合があります。
- その他、寄付き処理、ToSTNeT取引及び清算値段に関しても最小呼値単位が使われます。

商品区分	JGBオプション	TOPIXオプション		有価証券オプション	
		OP価格	呼値の単位	OP価格	呼値の単位
個別立会内(通常) ストラテジー	0.01	~20	0.1	~1,000	0.5(※)
		20~	0.5	~3,000	1
				~30,000	5
				~50,000	25
				~1,00,000	50
				~1,000,000	500
				1,000,000~	5,000
		インプライド注文	個別銘柄呼値とストラテジー呼値の合算		
個別立会内(寄付き処理) ToSTNeT 清算値段		0.1		0.5(※)	

※有価証券オプションで対象株券の売買単位が奇数の場合は、呼値の単位は「1」となります。

TOPIXオプションの権利行使価格の数

- 大幅な価格変動時にも、常にアウト・オブ・ザ・マネーの銘柄を確保する観点から、TOPIXオプションの権利行使価格設定本数を拡大します。

	現行	変更後
取引期間が4ヶ月超の限月取引	<ul style="list-style-type: none"> ・50ポイント刻みで9種類設定。 〈上下各200ポイントをカバー〉 ・その後、TOPIXの変動に応じて常に9種類が確保されるよう追加設定。 ・残存期間が4ヶ月以下となった場合、25ポイント刻みの権利行使価格が連続して9種類となるよう追加設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・50ポイント刻みで13種類設定。 〈上下各300ポイントをカバー〉 ・その後、TOPIXの変動に応じて常に13種類が確保されるよう追加設定。 ・残存期間が4ヶ月以下となった場合、25ポイント刻みの権利行使価格が連続して19種類となるよう追加設定。
取引期間が4ヶ月未満の限月取引	<ul style="list-style-type: none"> ・25ポイント刻みで9種類設定。 〈上下各100ポイントをカバー〉 ・その後、TOPIXの変動に応じて常に9種類が確保されるよう追加設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・25ポイント刻みで19種類設定。 〈上下各225ポイントをカバー〉 ・その後、TOPIXの変動に応じて常に19種類が確保されるよう追加設定。

2. 約定処理の概要

寄付き処理・ザラバ処理・呼値可能値幅について

約定処理の流れ

■ 寄付き処理(Uncrossing)

- ・指値注文同士による付合せ
- ・インプライドイン／インプライドアウトによる付合せ
- ・寄付き注文同士の付合せ

各場の立会開始前に受付けた指値注文を使って、現行の板寄せ処理と同様に単一価格での約定が試みられます。その後インプライド注文や寄付き注文を用いて可能な限り多くの約定を試みますが、こちらは立会開始後の最初の約定値段とは異なる価格で約定する可能性がありますのでご注意ください。

また、立会開始時点で約定可能な注文がない場合でも次のザラバ処理に移行します。

■ ザラバ付合せ処理

- ・「価格優先の原則」、「時間優先の原則」の個別競争売買による付合せ
- ・インプライドイン／インプライドアウトによる付合せ

現行と同様の個別競争売買に加えてストラテジー板との間での約定も試みますので約定可能性がより高くなります。その他に、以下の点が異なりますのでご注意ください。

- ・特別気配の廃止
- ・同時呼値の廃止(配分処理も廃止)

■ 立会い終了時の付合せ処理

Tdex+では立会い終了時には板寄せ処理は実施されずザラバのまま終了しますので、ご注意ください。

指値注文による寄付き処理

■ 指値注文による寄付き処理

ここでの指値注文とは、単純な指値注文のことを言い、インプライド呼値及び寄付き呼値は含みません。
(注文受付時間帯には、IC、MV及びCV条件付の指値注文は発注することができませんのでご注意ください。)

指値注文の寄付き処理は次のとおりです。

(1) すべての買注文及び売注文が付合せ可能な場合

最も低い買指値注文と最も高い売指値注文の平均値の値段で付合せされます。

(2) 買注文のみ未約定注文が残る場合

約定される最も低い買指値注文の値段で付合せさせます。

(3) 売注文のみ未約定注文が残る場合

約定される最も高い売指値注文の値段で付合せされます。

(4) 買注文及び売注文の双方に未約定注文が残る場合

次の(A)及び(B)の平均値の値段で付合せされます。

(A) 約定される最も低い買指値注文と未約定の最優先売呼値のうち、低いほうの値段

(B) 約定される最も高い売指値注文と未約定の最優先買呼値のうち、高いほうの値段

通常指値注文による寄付き処理時における付合せ値段は、付合せ値段のプレミアム水準に関わらず、最小の呼値の単位の整数倍で付合せがされますので、ご注意ください。

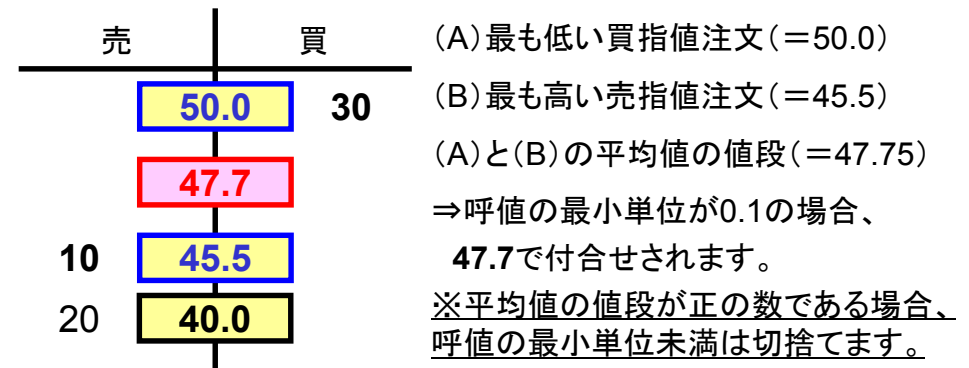
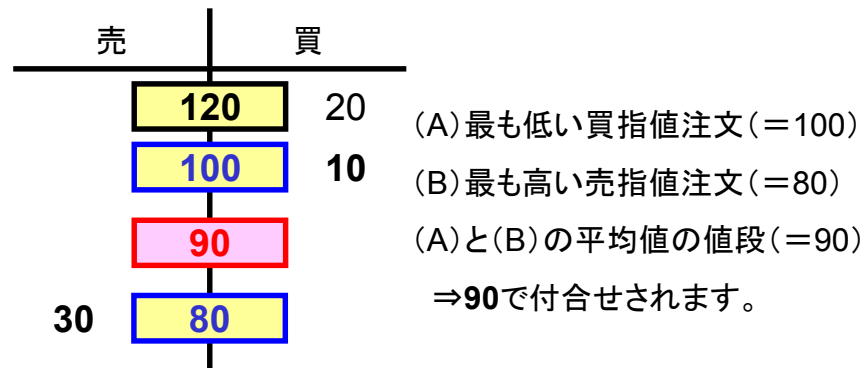
例：TOPIXオプションで本来は20ポイント以上は0.5ポイント刻みですが、20.7ポイントで約定することがあります。

例：有価証券オプションで本来は30,000円以上は5円刻みですが、30,000.5円単位で約定することがあります。

指値注文による寄り付き処理の具体例

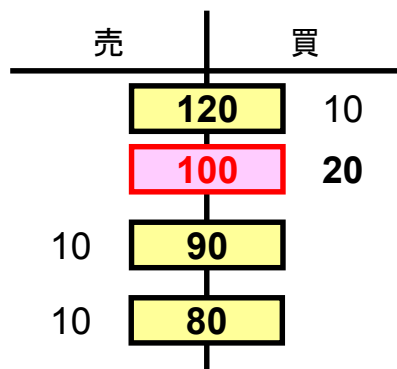
(1) すべての買注文及び売注文が付合せ可能な場合

最も低い買指値注文(A)と最も高い売指値注文(B)の平均値の値段で付合せされます。



(2) 買注文のみ未約定注文が残る場合

約定される最も低い買指値注文の値段で付合せさせます。

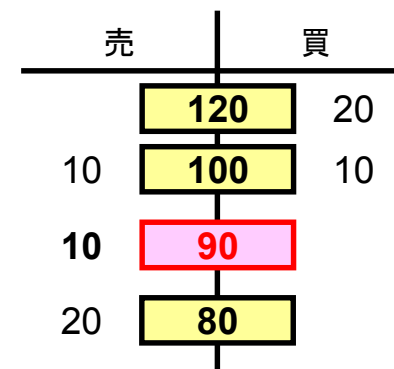


約定される最も低い買指値注文の値段 (=100)

⇒100で付合せされます。

(3) 売注文のみ未約定注文が残る場合

約定される最も高い売指値注文の値段で付合せさせます。



約定される最も高い売指値注文の値段 (=90)

⇒90で付合せされます。

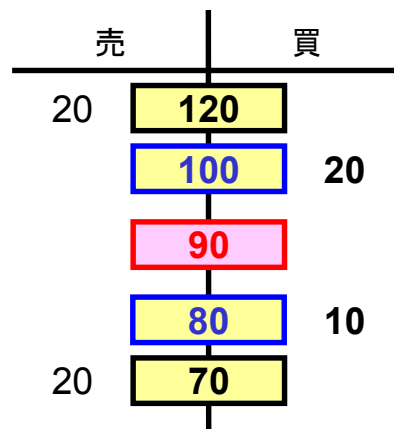
指値注文による寄付き処理の具体例

(4) 買注文及び売注文の双方に未約定注文が残る場合

次の(A)及び(B)の平均値の値段で付合せされます。

(A) 約定される最も低い買指値注文と未約定の最優先売呼値のうち、低いほうの値段

(B) 約定される最も高い売指値注文と未約定の最優先買呼値のうち、高いほうの値段

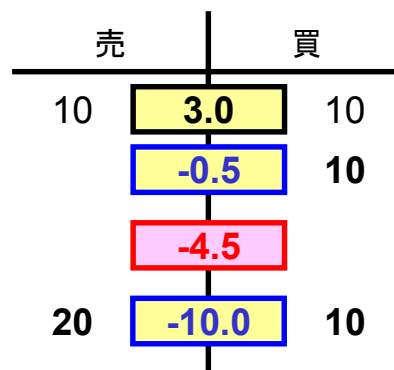


(A) 約定される最も低い買指値注文(=100)と未約定の最優先売呼値(=120)のうち、低いほうの値段(=100)

(B) 約定される最も高い売指値注文(=70)と未約定の最優先買呼値(=80)のうち、高いほうの値段(=80)

(A)及び(B)の平均値の値段(=90)

⇒90で付合せされます。



(A) 約定される最も低い買指値注文(= -0.5)と未約定の最優先売呼値(=3.0)のうち、低いほうの値段(= -0.5)

(B) 約定される最も高い売指値注文(= -10.0)と未約定の最優先買呼値(= -10.0)のうち、高いほうの値段(= -10.0)

(A)及び(B)の平均値の値段(= -4.75)

⇒呼値の最小単位が0.5の場合、-4.5で付合せされます。

※呼値が負の数である場合は、呼値の単位未満の値段はゼロに近い方に丸めます。

(呼値が正の数である場合は、(1)の例のとおり、呼値の単位未満の値段は切捨てます。)

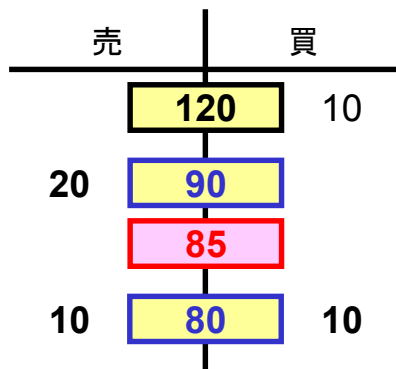
寄付注文の付合せ値段

■ 寄付き処理時における寄付注文の付合せ又は指値変換値段の採用値段の優先順位は、以下のとおりです。

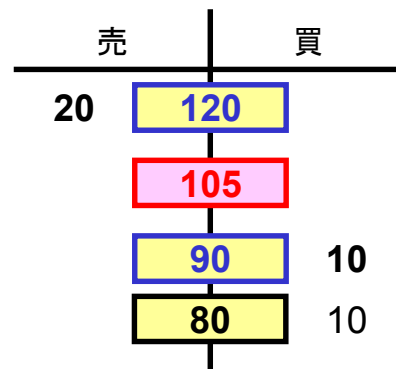
- ① 寄付き処理時における指値注文の付合せ値段
- ② 最優先売呼値と最優先買呼値の平均値の値段
- ③ 直近の最終約定値段で最優先呼値より優先するもの(寄付き処理時におけるインプライドによる付合せ値段を含む)。
- ④ 上述の条件に該当する値段がない場合、または、②及び③の値段が寄付き時の呼値可能値幅の範囲外の値段であった場合は、寄付注文は取消されます。

※ ①～③の値段は呼値の水準に関わらず、呼値の最小単位の整数倍の値段を採用いたしますのでご注意ください。

① 指値注文の付合せ値段

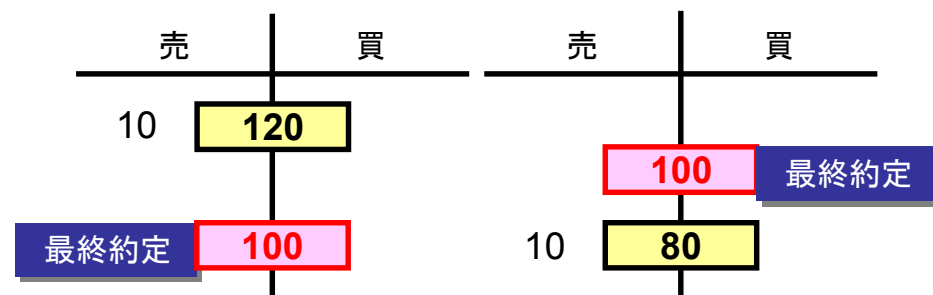


② 最優先呼値の平均値の値段



③ 最終約定値段

最終約定値段が最優先呼値よりも劣後する値段であった場合は、寄付注文は取消されますので、ご注意ください。



寄付注文は85で変換されます。

寄付注文は105で変換されます。

寄付注文は100で変換されます。

寄付注文は取消されます。

呼値可能値幅とは

■ 呼値可能値幅の目的

直近の理論価格から大幅に乖離する水準に発注された注文を受け付けないことで、誤注文が即時に約定されることを未然に防止することです。

■ 呼値可能値幅機能の概要

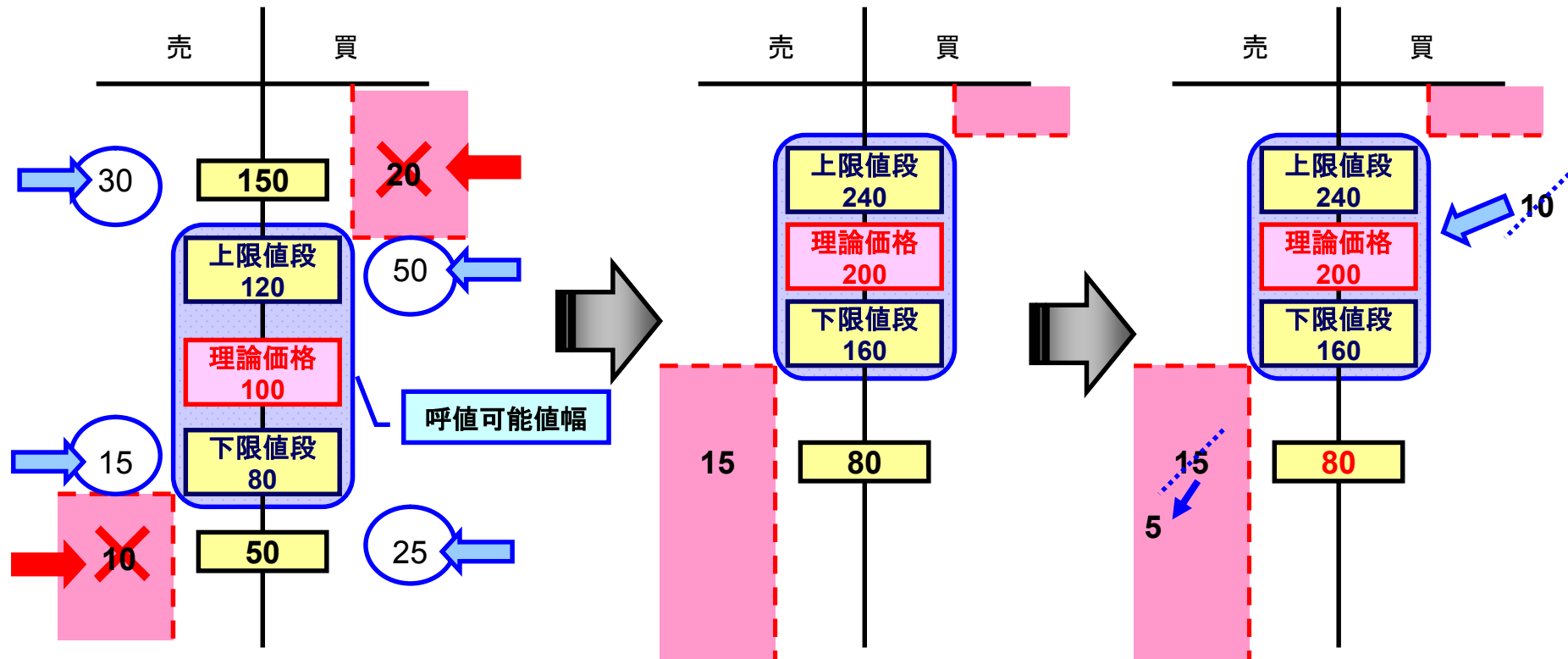
呼値可能値幅の上限値段より高い値段を指定した買注文は受け付けません。
呼値可能値幅の下限値段より低い値段を指定した売注文は受け付けません。

(補足)

- ・ 呼値可能値幅の幅を決定する基準値段は、理論価格を採用します。
- ・ 理論価格は、日中の原資産の価格変動に応じてリアルタイムに更新されます。
- ・ 理論価格を基準とした呼値可能値幅機能を採用することにより、原資産の価格変動に応じて、リアルタイムにオプションの価格形成が可能となることから、現行制度における特別気配値段制度は廃止いたします。
- ・ 一度受け付けられた注文は、原資産の価格変動等により当該呼値が呼値可能値幅外となったとしても取消されません。
- ・ 呼値可能値幅機能は、呼値禁止値段に発注された注文を受け付けない機能であり、原資産の価格変動に伴い、すでに受け付けられている注文が呼値可能値幅の範囲外となった場合に、呼値可能値幅の範囲内に発注された反対注文により、呼値可能値幅の範囲外の値段(呼値禁止値段)で約定されることがありますので、ご注意ください。

※ 呼値可能値幅の中心値段となる理論価格の算出方法に関する詳細は、理論価格の項をご参照ください。

呼値可能値幅のイメージ



呼値可能値幅の下限値段(=80)よりも低い売注文(=50)は受け付けられません。

呼値可能値幅の上限値段(=120)よりも高い買注文(=150)は受け付けられません。

ただし、呼値可能値幅の下限値段よりも低い買呼値及び上限値段よりも高い売呼値は受け付けられます。

原資産の価格変動等に応じて理論価格が更新(=100→200)されることに伴い、呼値可能値幅も更新されます。

一度受け付けられた呼値可能値幅の下限値段(=160)よりも低い売注文(=80)は取り消されることはありません。

更新後の呼値可能値幅内に買10単位の注文が発注されることにより、すでに受け付けられている呼値可能値幅の下限値段未満の売注文(=80)と即時に付合せがされます。

一度受け付けられた注文が付合せ時点で呼値可能値幅外の水準で付合せされることもありますので、ご注意ください。

商品別における呼値可能値幅

■ JGBオプション、TOPIXオプション

	JGBオプション	TOPIXオプション
呼値可能値幅の基本条件	①直近限月：理論価格の上下20% ②直近限月以外：理論価格の上下30%	①直近4限月：理論価格の上下20% ②直近4限月以外：理論価格の上下30%
呼値可能値幅の上限／下限	上限：算出値が90銭を超過する場合 90銭 下限：算出値が20銭に満たない場合 20銭	上限：算出値が30ポイントを超過する場合 30ポイント 下限：算出値が10ポイントに満たない場合 10ポイント

■ 有価証券オプション 直近X限月の定義は同一日付内で変わりません(イブニングセッションから直近X限月が替わることはありません)。

	有価証券オプション	原資産の基準値段	下限値	上限値
呼値可能値幅の基本条件	①直近2限月： 理論価格の上下20% ②直近2限月以外： 理論価格の上下30%	500円未満	10円	20円
		500円以上 1,000円未満	20円	40円
呼値可能値幅の上限／下限	算出された値幅が原資産の基準値段に応じて定めた右記のテーブルの上限値を超過又は下限値に満たない場合は、右記のテーブルの値幅に従う	1,000円以上 3,000円未満	50円	100円
		3,000円以上 5,000円未満	100円	200円
		5,000円以上 10,000円未満	200円	400円
		10,000円以上 30,000円未満	500円	1,000円
		30,000円以上 50,000円未満	1,000円	2,000円
		50,000円以上 100,000円未満	2,000円	4,000円
		100,000円以上 300,000円未満	5,000円	10,000円
		300,000円以上 500,000円未満	10,000円	20,000円
	500,000円以上	20,000円	40,000円	

呼値可能値幅の具体例

■ JGBオプション (直近限月)

①

理論価格	3.00円
可能値幅	0.60円

理論価格の上下20%の値(=0.60円)が0.20円以上0.90円未満であるため、呼値可能値幅は**0.60円**になります。

②

理論価格	0.50円
可能値幅	0.20円

理論価格の上下20%の値(=0.10円)が0.20円未満であるため、呼値可能値幅は下限値の**0.20円**になります。

③

理論価格	5.00円
可能値幅	0.90円

理論価格の上下20%の値(=1.00円)が0.90円以上であるため、呼値可能値幅は上限値の**0.90円**になります。

■ TOPIXオプション (直近4限月)

①

理論価格	80.0p
可能値幅	16.0p

理論価格の上下20%の値(=16.0p)が10.0p以上30.0p未満であるため、呼値可能値幅は**16.0p**になります。

②

理論価格	30.0p
可能値幅	10.0p

理論価格の上下20%の値(=6.0p)が10.0p未満であるため、呼値可能値幅は下限値の**10.0p**になります。

③

理論価格	200.0p
可能値幅	30.0p

理論価格の上下20%の値(=40.0p)が30.0p以上であるため、呼値可能値幅は上限値の**30.0p**になります。

■ 有価証券オプション (直近2限月)

①

原資産基準値段	1,500円
理論価格	400円
可能値幅	80円

原資産値段が1,500円かつ理論価格の上下20%の値(=80円)が50円以上100円未満であるため、呼値可能値幅は**80円**になります。

②

原資産基準値段	3,000円
理論価格	400円
可能値幅	100円

原資産値段が3,000円かつ理論価格の上下20%の値(=80円)が100円未満であるため、呼値可能値幅は下限値の**100円**になります。

③

原資産基準値段	250,000円
理論価格	70,000円
可能値幅	10,000円

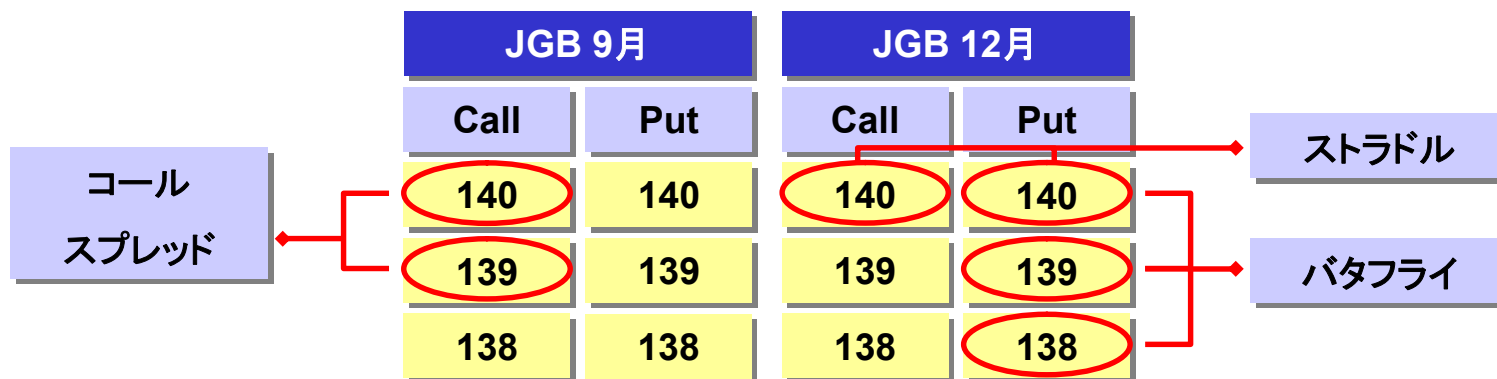
原資産値段が250,000円かつ理論価格の上下20%の値(=14,000円)が10,000円以上であるため、呼値可能値幅は**10,000円**になります。

3. ストラテジー取引

オプションのみの単純なストラテジー取引

ストラテジー取引とは

- ストラテジー取引とは、複数のオプション銘柄を組み合わせ、あたかも1つの銘柄のように発注・約定を行う取引です。ストラテジー取引には以下のような利点があります。
 - 板生成時に指定した数量比率で約定しますので、一部の銘柄のみが約定してしまうリスクがありません。
 - 個別銘柄価格でなく、ストラテジーとしての価格で取引できますので、想定外の不利な約定価格となるリスクがありません。
 - 数十種のストラテジーから自由に構成銘柄を選ぶことができます。
 - 一部のストラテジーはインプライド機能により個別銘柄板と連動しますので、特に意識することなく最も有利な約定機会が提供されます。



ストラテジー取引の流れ

■ STEP1 ストラテジー板を作成します。

個別銘柄と異なり、ストラテジーは注文を発注する前に板を作成する必要があります※1。

そのため、ストラテジーの板が作成される都度、作成されたストラテジーの銘柄コード(AMR※2)は配信されますが、個別銘柄と異なり、9桁の銘柄コードは配信されません(存在しません)のでご注意ください。

※1 GTC注文が発注されている場合、その有効期日が到来するまでは、当該注文が登録されているストラテジーの板は毎朝自動的に作成されます。

※2 AMRとはAuto Market Referenceの略で、システムが独自に採番する銘柄コードのことです。

ストラテジー銘柄の板の作成方法

① ストラテジーの種類(ストラテジー・コード)を選択します。

② ストラテジーの構成銘柄の情報を指定します。

(商品、売・買の別、レシオ※3、限月、権利行使価格、プット・コールの別)

※3 レシオとは、ストラテジーが1単位に対して同時に取引が成立する構成銘柄の取引数量の比率のことをいいます。

e.g. レシオが2でストラテジーが50単位約定した場合、構成銘柄は100単位の取引が成立します。

ストラテジー取引の流れ

■ SETP2 作成されたストラテジー板に注文を発注します。

作成済みのストラテジーに対して、ストラテジー値段及び数量を指定して発注します。

ストラテジー値段の算出方法については、後述の具体例をご参照ください。

ストラテジー値段にもプラス値段・マイナス値段に関わらず、呼値の単位テーブルが適応されます。

■ STEP3 ストラテジー板の呼値に対して発注された反対注文により、取引が成立します。

ストラテジーが付合せされるのと同時に構成銘柄もシステムで自動算出された値段で付合せされます。

清算情報では、ストラテジーを構成する個別銘柄の約定情報のみが配信されます。

ストラテジーに関する価格情報は、FLEXでは配信されませんので、ご注意ください(構成銘柄の取引高のみ更新されます)。

ストラテジー取引の具体例

■ STEP1 ストラテジー板の作成

ストラテジーコード、構成銘柄を指定します(例はバタフライ)。作成済みの板がある場合はそれを利用することもできます。

ストラテジーコード	売 / 買	レシオ	銘柄情報(商品、限月、権利行使価格、PUT / CALL)
B	買い	1	TOPIX OP 200910 950.0 PUT
	売り	2	TOPIX OP 200910 975.0 PUT
	買い	1	TOPIX OP 200910 1000.0 PUT

■ STEP2 ストラテジーへの発注

投資家AがSTEP1で作成したバタフライに対して、値段:3.7ポイント、数量:100単位の買い注文を発注。

- ストラテジーへの買い注文とは、板作成時の構成銘柄の売り買いと同方向に取引することを意味します。
- ストラテジー板への呼値は、構成銘柄の価格差を表します。下記のとおり買い方主導で計算したものを使用して下さい。

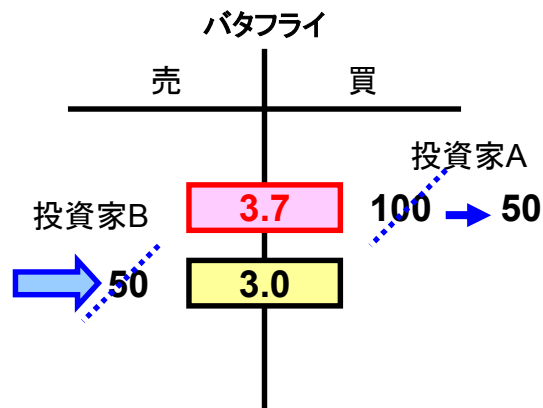
$$\begin{aligned}
 \text{バタフライのストラテジー呼値} &= +(\text{買い})1(\text{レシオ}) \times (\text{TOPIX OP 200910 950.0 PUTの値段}) \\
 &\quad - (\text{売り})2(\text{レシオ}) \times (\text{TOPIX OP 200910 975.0 PUTの値段}) \\
 &\quad + (\text{買い})1(\text{レシオ}) \times (\text{TOPIX OP 200910 1000.0 PUTの値段})
 \end{aligned}$$

※ 各構成銘柄の売り買いの別は、売りはマイナス、買いはプラスとして扱い、レシオは各構成銘柄の値段の倍率を示します。

ストラテジー取引の具体例

STEP3 反対注文による取引の成立

投資家BがSTEP1で作成されたバタフライに対して、値段:3.0ポイント、数量:50単位の売り注文※1を発注し、3.7ポイントで50単位約定。これにより板作成時に指定した構成銘柄が、指定した約定比率、3.7ポイントの価格差※2で約定することになります。



※1 ストラテジーに対する「売り注文」は、板作成時の各構成銘柄の売り買いを逆に指定していることとなります。

※2 ストラテジーの各構成銘柄の約定値段は、理論価格の割合に応じて決定します。ストラテジー約定値段と各構成銘柄の理論価格によるストラテジー算出値段が一致しない場合は、ストラテジー約定値段と理論価格によるストラテジー算出値段の差分を各構成銘柄の理論価格の割合に応じて配分します。

ストラテジー構成銘柄	レシオ	ストラテジー売り方 (投資家B)	約定値段	ストラテジー買い方 (投資家A)
TOPIX OP 200910 950.0 PUT	1	売り50枚	18.2	買い50枚
TOPIX OP 200910 975.0 PUT	2	買い100枚	22.5	売り100枚
TOPIX OP 200910 1000.0 PUT	1	売り50枚	30.5	買い50枚

$$(構成銘柄の約定価格) 18.2 \times 1 - 22.5 \times 2 + 30.5 = 3.7 \text{ (ストラテジー約定価格)}$$

4. デルタニュートラル取引

原資産を組み合わせたストラテジー取引

デルタニュートラルとは

- オプションだけでなく原資産を組み合わせたストラテジー取引も利用できます。
- 原資産を組み合わせたストラテジーを特別にデルタニュートラルと呼びます。
- デルタニュートラル取引が成立すると、オプションと原資産が指定した比率(デルタ)で約定します。

	JGBオプション	TOPIXオプション	有価証券オプション
対象原資産	<p>JGB先物</p> <ul style="list-style-type: none"> ■先物限月は満期を迎えていなければ受渡対象限月以外と組み合わせることもできます。(追加)ただし、取引時点でいずれのオプション限月の受渡し対象にもなっていない先物(*)を使うことはできません。 ■ミニJGB先物は対象外です。 	<p>TOPIX先物</p> <ul style="list-style-type: none"> ■先物限月は満期を迎えていなければどの限月と組み合わせることもできます。 ■ミニTOPIX先物は対象外です。 	対象株券

* 例：先物期近限月で、同一限月のオプションが満期を迎えて消滅して以降、先物自身の満期日まで。あるいは先物の最期先限月。

デルタニュートラルで指定する原資産情報

- デルタニュートラルストラテジーは、通常のストラテジー取引に加えて下記の原資産情報を入力する必要があります(具体的な指示方法はISVによって異なります)。

	JGBOP	TOPIXOP	有価証券OP
Exchange Code	G	F	S
Generic Contract Type	F	F	S
Physical Commodity Code	JGB	TPX	3桁内の原資産コード
限月	先物限月 APIでは(YYYYMM00)		APIでは8個のゼロをダミーで入力
デルタ	0.01～1.00の値で小数点以下2桁まで指定できます(APIでは1000倍した値を指定)。ここで指定したデルタに従って、約定数量が決定されます。例えばデルタ0.5のデルタニュートラルが100枚約定した場合は対象原資産が50売買単位約定します(詳細な計算は次ページ以降)。		
原資産価格	ここで指定した価格で原資産約定が成立します。発注時に以下の価格範囲に収まっていない場合は注文が受け付けられません。 基準価格は原則として原資産の約定値段、特別気配、最優先気配仲値のうち最新で更新された情報を使います。		
	基準価格±0.5%	基準価格±5%	基準価格±7%

※有価証券オプションにおいて対象株券を信用取引とする場合は、信用新規・弁済の別を指定する必要があります(詳細は別紙参照)。

デルタや原資産価格チェックについての注意事項

- デルタニュートラル取引については以下のチェックを行っていますので板の生成や注文受付ができない場合があります。

<p>板生成時のチェック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要な情報が全て入力されているかをチェックします(前頁参照)。 ■ デルタとして入力された値が理論値と乖離しているかどうかはチェックしません。 ■ ただし、理論デルタがマイナスである時に、原資産売りを組み合わせたり、理論デルタがプラスである時に、原資産買いを組み合わせることはできません(例:コール買いに原資産買いを組み合わせることは不可)。
<p>注文発注時のチェック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 注文発注時の原資産価格と、板生成時に指定した原資産価格が大きく乖離していないかをチェックします。乖離している場合は注文を受け付けません。 ■ 板生成時に行ったデルタ符号のチェックは行いません。

デルターニュートラルによる約定処理の例(1)

- 下記の例はバタフライに原資産取引を組み合わせたデルタニュートラル取引の例です。
- 板上の値段及び発注数量はあくまでもオプション部分のみをあらわします。
- 約定が成立すると原資産の約定値段は板生成時に指定された値段で成立します。
- 原資産の約定数量はオプション約定数量 × 板生成時に指定されたデルタを計算し四捨五入します(厳密な計算方法は後述)。

バタフライ+原資産	
JGBOP 200908 Call 140.0 レシオ1 買い	JGB先物 200909 先物価格140.00 デルタ0.21 売り
JGBOP 200908 Call 140.5 レシオ2 売り	
JGBOP 200908 Call 141.0 レシオ1 買い	

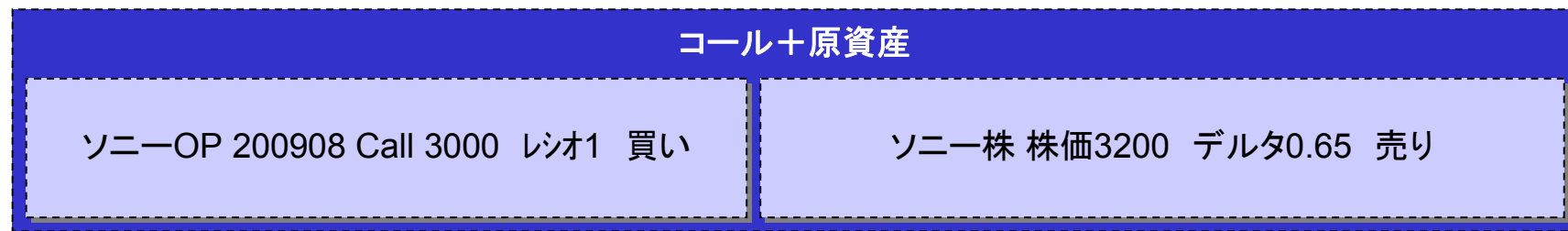


価格0.03、売り買い50枚発注→全約定成立

	価格	売り方	買い方
JGBOP 200908 Call 140.0	0.30	売り50枚	買い50枚
JGBOP 200908 Call 140.5	0.18	買い100枚	売り100枚
JGBOP 200908 Call 141.0	0.09	売り50枚	買い50枚
JGB先物 200909	140	50 × 0.21 = 10.5 → 買い11枚	50 × 0.21 = 10.5 → 売り11枚

デルタニュートラルによる約定処理の例(2)

- 有価証券オプションのデルタニュートラルの場合も基本的な仕組みは同じですが、約定成立株数の計算が以下のとおりとなるのでご注意ください。
 - オプション約定数量×デルタを計算し四捨五入(厳密な計算方法は後述)
 - 上で計算した値に対象有価証券の売買単位を乗じて約定株数を計算
- なお、コーポレートアクションでオプションの受渡株数と対象有価証券の売買単位が異なる場合は、当該オプションのデルタニュートラル取引はできません。

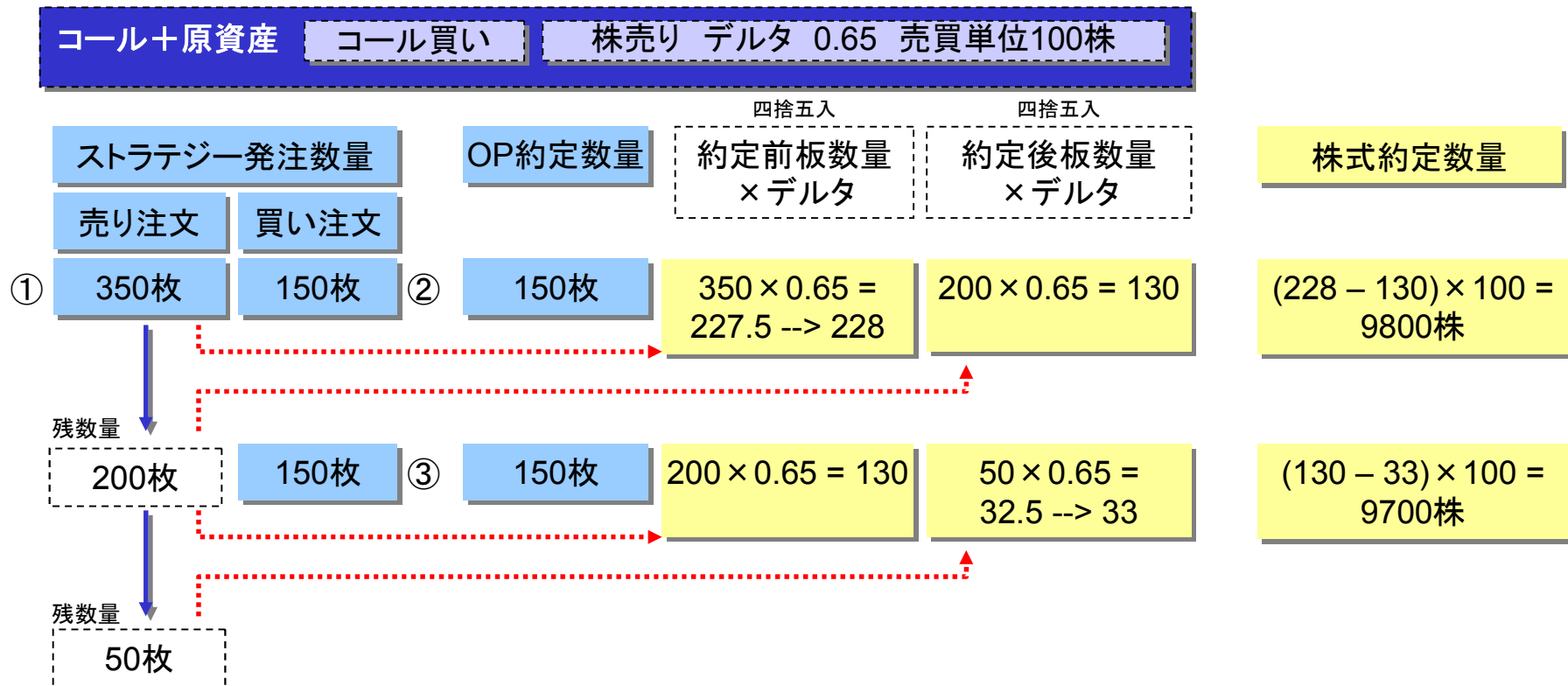


価格250、売り買い50枚発注→
全約定成立

	価格	売り方	買い方
ソニーOP 200908 Call 3000	250	売り50枚	買い50枚
ソニー株	3200	$50 \times 0.65 =$ 32.5 → 買い 33 × 売買単位=3300株	$50 \times 0.65 =$ 32.5 → 売り 33 × 売買単位=3300株

デルタニュートラルによる約定処理の注意事項

- 原資産の約定数量の計算は、板上のデルタニュートラル注文が約定前と約定後の数量を使って、下記のように計算します。
- ①と②の注文が約定した場合と、①の残注文と③の注文が約定した場合で、どちらもOP部分は150枚の約定ですが、端数処理の関係で株式の約定数量が異なるという例です。

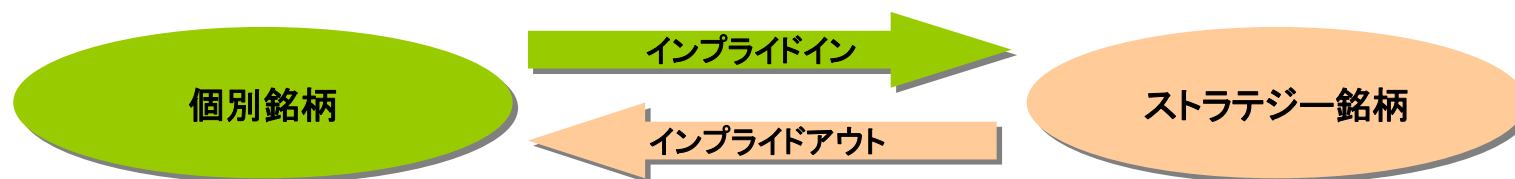


5. インプライド機能

インプライドイン・インプライドアウト

インプライド機能とは

- インプライド機能とは、個別銘柄及びストラテジー銘柄双方において、相互の流動性を活用することで取引成立の機会を高める機能です。
- インプライド機能には、インプライドインとインプライドアウトの2種類の機能があります。複数の個別銘柄呼値から特定のストラテジー呼値を派生させる機能をインプライドインといい、他方、個別銘柄呼値を契機としてストラテジー呼値から他の個別銘柄呼値を派生させる機能をインプライドアウトといいます。
- インプライド機能による呼値の単位は、呼値の水準にかかわらず、当該商品の最小呼値の整数倍となります。



インプライドインの発生と付合せ

■ インプライドインの発生

複数の個別銘柄呼値の組合せから、ストラテジー銘柄に対してインプライドイン呼値を発生させ、ストラテジー呼値との付合わせを行います。

後述のインプライドアウトと異なり、ストラテジー銘柄におけるインプライドイン呼値の配信は行いませんが、個別銘柄の板状況を使って、参加者又はISVが独自に仮想インプライドイン呼値を計算することは可能です。

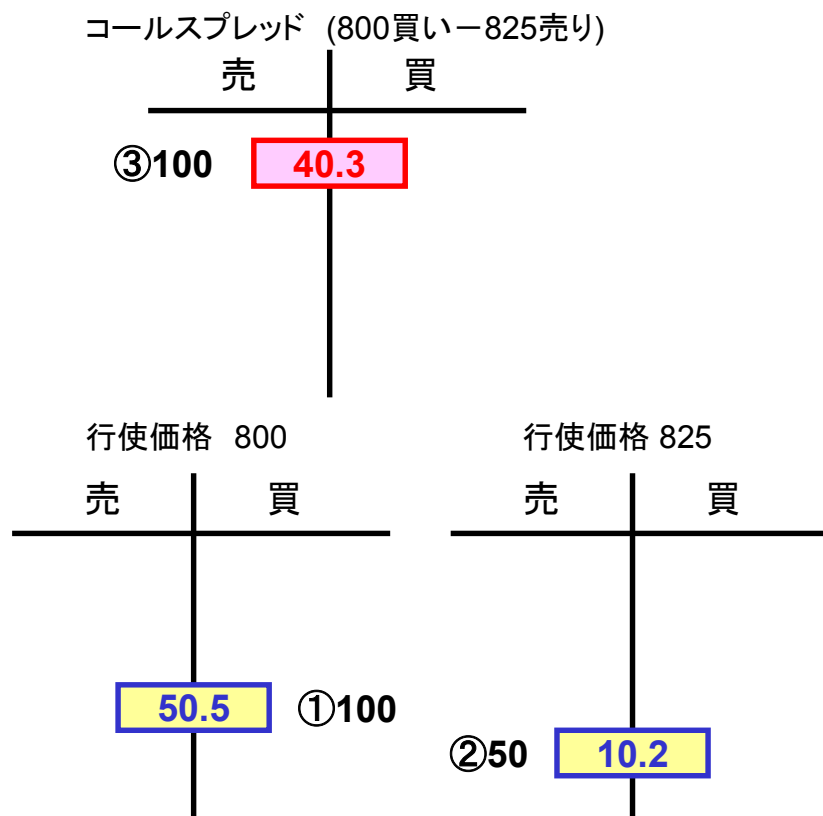
■ インプライドインの付合せ

インプライドイン呼値は、発生したストラテジー銘柄内のストラテジー呼値とのみ約定します(インプライドイン呼値同士の約定は発生しません)。

ストラテジー銘柄における通常のストラテジー呼値とインプライドイン呼値の付合せ優先順位は、価格優先順となります。同値に通常のストラテジー呼値とインプライドイン呼値が存在する場合、通常のストラテジー呼値が優先します。

インプライドインの具体例

〈具体例 1〉 インプライドイン呼値の発生(コールスプレッドの買い)



①投資家Aが個別銘柄(権利行使価格800)に価格50.5の買注文100単位を発注します。

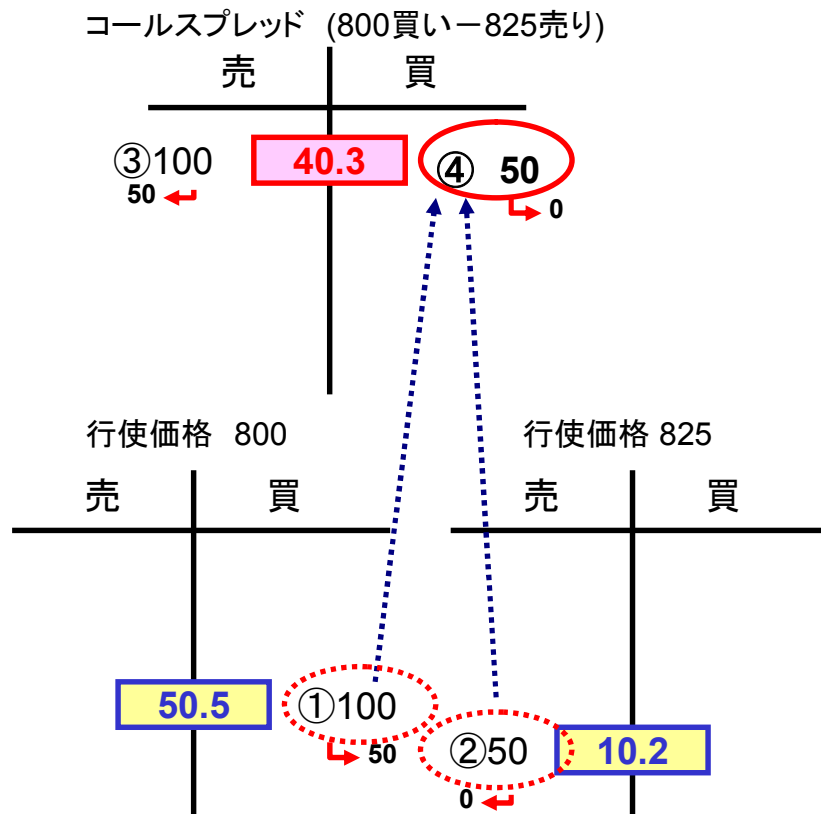
②投資家Bが個別銘柄(権利行使価格825)に価格10.2の売注文50単位を発注します。

③投資家Cがストラテジー銘柄(ストラドル:銘柄①買い+銘柄②売り)に価格40.3の売注文100単位を発注します。

インプライド機能がないと3人の投資家の注文は、反対注文がないために約定されません。

インプライドインの具体例

＜具体例 1＞ インプライドイン呼値の発生(コールスプレッドの買い)

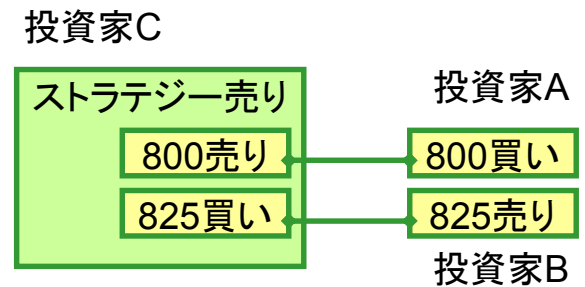


④投資家AとBの注文を組み合わせれば、コールスプレッドの買い注文が形成でき、かつ、投資家Cのスプレッド呼値と対当できますので、インプライドイン呼値を発生させます。

呼値=50.5 - 10.2 = 40.3

数量=ストラテジーを構成できる数量=50

⑤インプライドイン呼値と投資家Cのスプレッド呼値が約定し、投資家A,B,Cの3者の注文が約定します。



インプライドアウトの発生と付合せ

■ インプライドアウトの発生

当取引所は、必要に応じて、個別銘柄呼値とストラテジー呼値から他の個別銘柄に対して呼値(以下、インプライドアウト呼値という。)を発生させます。インプライドアウト呼値が既存の最優先呼値と同値もしくは更新する場合に限って、相場情報として配信を行います。ISV又は参加者がインプライドアウト呼値情報を利用している場合、これに向かって発注することで特に意識することなくストラテジー板の流動性を利用することができます。

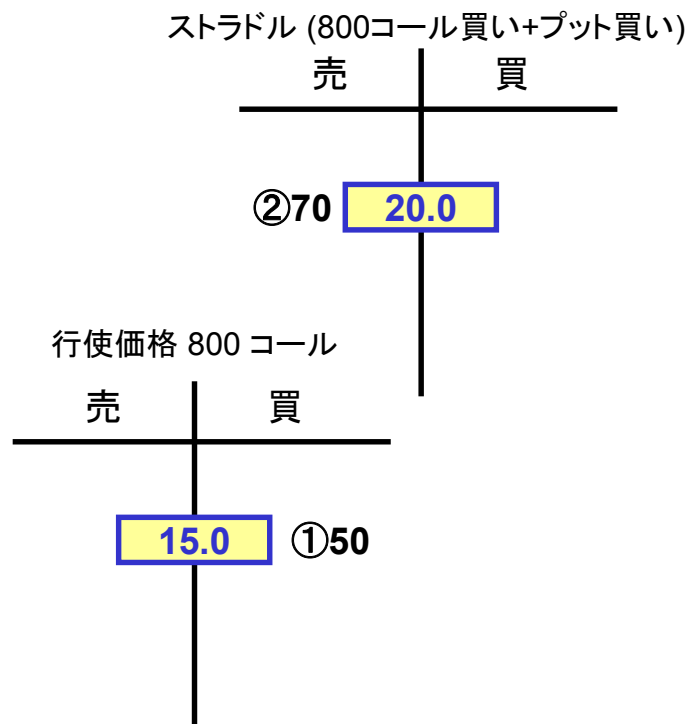
■ インプライドアウトの付合せ

インプライドアウト呼値は、個別銘柄呼値または他のインプライドアウト呼値と約定します(インプライドアウト呼値同士の約定も発生します)。

個別銘柄における通常の個別銘柄呼値とインプライドアウト呼値の付合せ優先順位は、価格優先順となります。同値に通常の個別銘柄呼値とインプライドアウト呼値が存在する場合、通常の個別銘柄呼値が優先します。

インプライドアウトの具体例

〈具体例 1〉 インプライドアウト呼値の発生(ストラドルの買い⇒権利行使価格800プット)



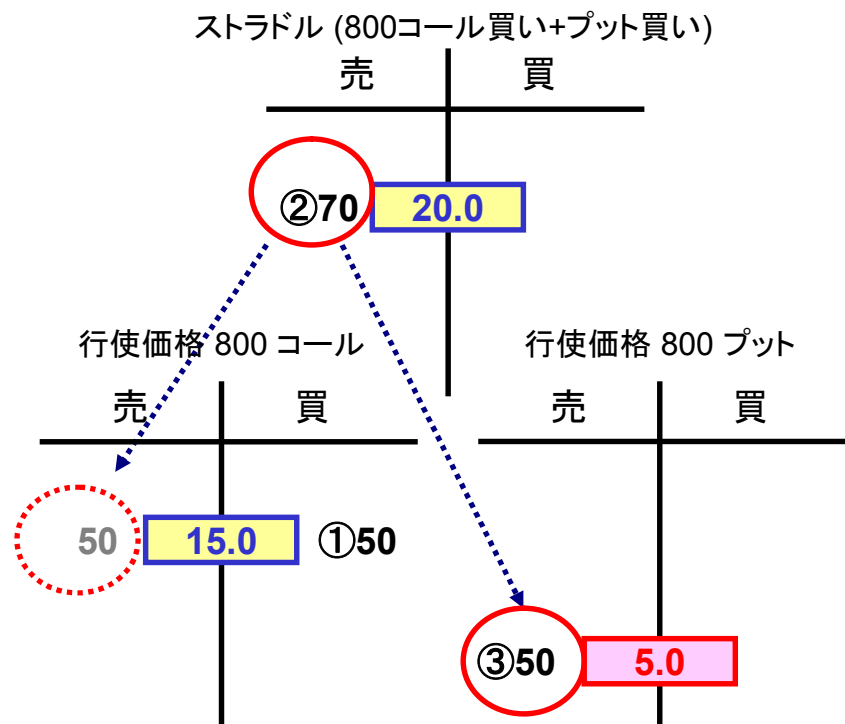
①投資家Aが個別銘柄(権利行使価格800C)に価格15.0の買注文50単位を発注します。

②投資家Bがストラテジー銘柄(ストラドル)に価格20.0の売注文70単位を発注します。

インプライド機能がないと投資家Aと投資家Bの注文は反対注文がないため約定することはありません。

インプライドアウトの具体例

〈具体例 1〉 インプライドアウト呼値の発生(ストラドルの買い⇒権利行使価格800プット)



③投資家Bのストラテジー注文は個別銘柄に分解すると行使価格800コール売りと800プット売りになります。

行使価格800コールには投資家Aの買い注文が既にありますので、これと対当させることができます。

後は行使価格800プットに対当できる注文があれば、ストラテジーと個別銘柄の間で約定成立させることができます。

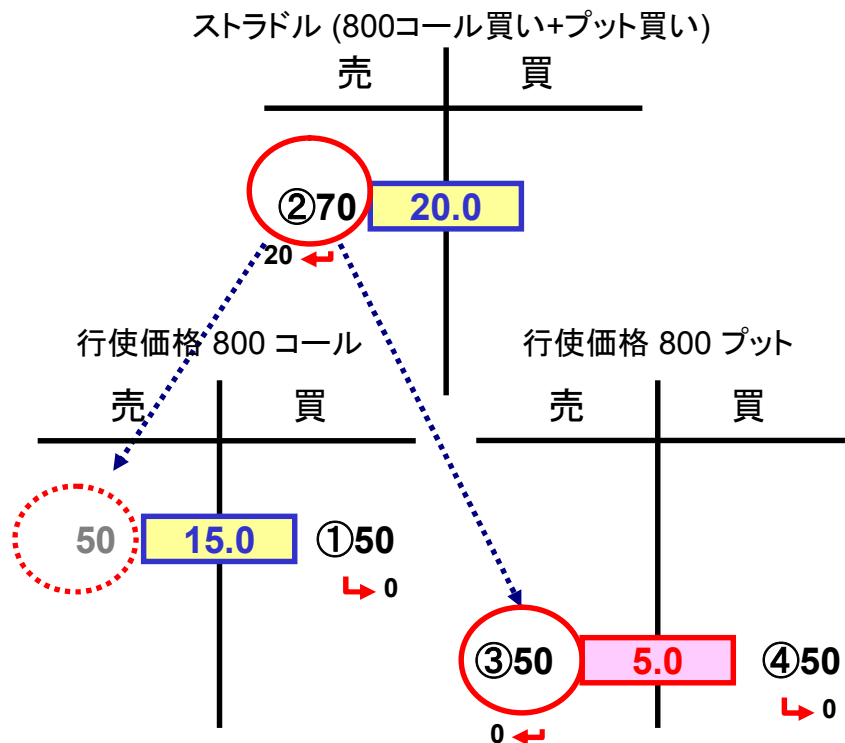
そこで行使価格800プットに反対注文を呼び込むために、インプライドアウト呼値を発生させます。

呼値=20.5 - 15.0 = 5.0

数量=ストラテジーを構成できる数量=50

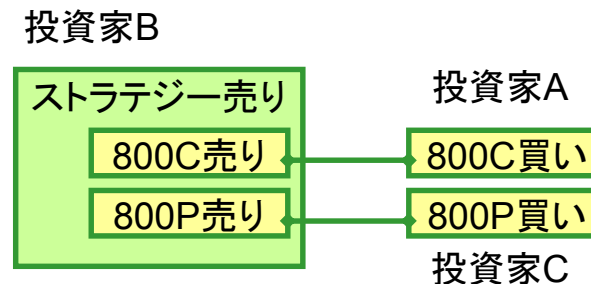
インプライドアウトの具体例

〈具体例 1〉 インプライドアウト呼値の発生(ストラドルの買い⇒権利行使価格800プット)



④行使価格800プットに表示されたインプライドアウト呼値をみて、投資家Cが価格5.0で50単位の注文を発注し約定します。

これにより投資家A,B,Cの3者の注文が約定します。



インプライド機能のメリット

- 前ページまでの例で示すとおり、インプライド機能により個別銘柄板とストラテジー板が連携することで約定の可能性が高まります。
- しかも各々の投資家は通常の発注をしているだけですので、インプライド機能の仕組みを知らなくても、そのメリットを享受することができます。
- 一見、板上に反対注文が見当たらない状況でも、指値注文を発注しておけば、システムが関連する板から反対注文を見つけてきてくれる可能性があるというのが、既存のシステムと大きく違う点です。

インプライド機能の対象ストラテジー

- インプライド機能の対象となるストラテジーは以下のとおりです。

ストラテジー取引の種類	インプライドイン	インプライドアウト
コール(プット)スプレッド	○	○
コール(プット)カレンダー・スプレッド	○	○
コール(プット)ダイナゴル・カレンダー・スプレッド	○	○
ストラドル	○	○
ストラングル	○	○
コール(プット)バタフライ	○	×
コール(プット)ラダー	○	×
2×1レシオ コール(プット)スプレッド	○	×

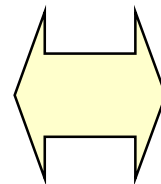
6. マーケットメイカー制度

マーケットメイカー制度の概要

- オプション市場に十分な流動性を提供し、常時提示されるAsk/Bidにより投資家が円滑にオプションの売買を行うことができるよう、マーケットメイカー制度を導入します。
- これにより、期近限月のATM近辺には、指定マーケットメイカーによる気配提示が継続的に行われることとなります。
- また、それ以外の銘柄は指定マーケットメイカーがRFQに応答することにより、取引機会を確保します。
- システムだけでなく制度面でも、より使い易いマーケットを目指して参ります。
- なお、マーケットメイカー(MM)は流動性の提供への対価として、専用機能や手数料割引といった特典を受けることができます。

MMの役割

- ① マーケットメイク対象銘柄に対して、常時Ask/Bid(“Quote”)を提示
- ② ①以外の担当銘柄にRFQが出た場合、それに対するQuoteを提示



MMのインセンティブ

- ① 取引料の割引
 - Quoteの提示時間に応じた取引料の割引
- ② MMのみが利用可能な取引機能
 - マーケットメイク注文(MMO)
 - デルタプロテクション
- ③ MMコミッティメンバーとして制度構築に参加

マーケットメイカーの役割 – Quote提示

【マーケットメイカーの役割】

- マーケットメイカーは下記の対象銘柄に対してQuote最低数量以上、スプレッド幅以内の気配提示を行うことを求められます。
- マーケットメイカー制度開始当初は以下の役割設定としますが、必要に応じて見直しを行うこととします。

商品区分	国債先物OP	指数OP	有価証券OP
メイク対象原資産	JGB-OP	TOPIX-OP	選択した枠の対象有価証券OP
メイク対象銘柄 (原則として、常時Ask/bidを提示する)	直近2限月について、 各限月・P/CのATM近辺12本中7本分 (28銘柄) ※ATM近辺12本とは、ITM4本分+ATM1本+OTM7本分 ※ただし、先物期先限月を原資産とする限月取引に関しては、当該限月オプションが第一限月となる日の5営業日前の日から、継続気配提示義務及びRFQ提示義務の対象とします。	直近4限月について、 各限月・P/CのATM近辺12本中7本分 (56銘柄) ※ATM近辺12本とは、ITM4本分+ATM1本+OTM7本分	直近2限月について、 各限月・P/CのATM近辺5本中3本分 (12銘柄×N原資産) ※ATM近辺5本とは、ITM2本分+ATM1本+OTM2本分
Quote最低数量	10単位	10単位	10単位
スプレッド幅	【第1限月】 買い指値の10%(ただし、計算値が10銭以下の場合は10銭) 【第2限月】 買い指値の15%(ただし、計算値が20銭以下の場合は20銭)	買い指値の値段の10%もしくは1.0ポイントの大きい数値	買い指値の値段の10%もしくは原資産の価格に応じた下限値の大きい数値 (※次ページ表参照)

※原資産が売買停止中など気配提示が難しい場合は提示が行われない場合があります。

※イブニングセッション中はスプレッド幅は1.5倍に拡大されます。

マーケットメイカーの役割 – Quote提示義務

(有価証券オプションのスプレッド役割幅)

原資産価格	スプレッド幅
500円未満	買い指値の10%の数値 もしくは 10円
500円以上 1,000円未満	// 20円
1,000円以上 3,000円未満	// 30円
3,000円以上 5,000円未満	// 50円
5,000円以上 10,000円未満	// 100円
10,000円以上 30,000円未満	// 300円
30,000円以上 50,000円未満	// 500円
50,000円以上 100,000円未満	// 1,000円
100,000円以上 300,000円未満	// 3,000円
300,000円以上 500,000円未満	// 5,000円
500,000円以上	// 10,000円

リクエスト・フォー・クォート (RFQ) とは

■ RFQとは

RFQ (Request For Quote)とは、期先限月やアット・ザ・マネーから乖離した権利行使価格など流動性の低い銘柄※において取引の成立を促進するため、マーケットメイカーに対して気配提示を求める機能です。

RFQメッセージを受け取ったマーケットメイカーは、10秒以内に気配提示を開始して、30秒ほど継続的に気配提示を続けることを目安としていますので、価格をみて取引の判断を行ってください。

※マーケットメイカーの気配提示は期先限月やATMを中心として行われます。

■ 利用方法

取引参加者は、RFQ利用時に以下の内容を指定する必要があります。

- ・商品名、限月及び銘柄(ストラテジー取引も含む)
- ・数量(数量指定がない場合は、別途取引所が定めた数量が提示されます。)

■ RFQの利用に関する注意事項

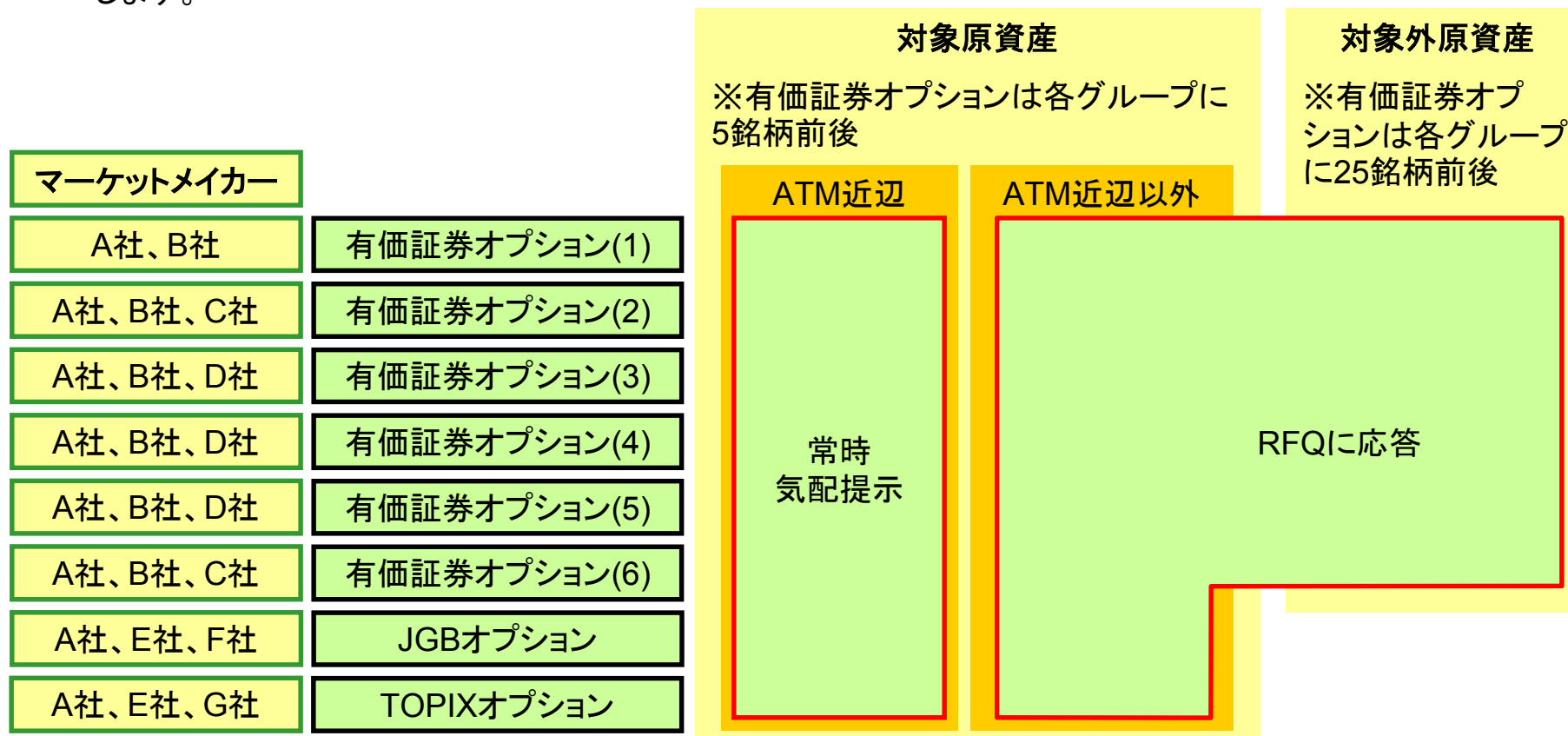
・直前に提示したRFQよりも大きい数量を指定した場合を除き、RFQ利用後は取引所の定める一定時間はRFQの再提示を行うことができません。

・マーケットメイカーは効率的な市場形成のために可能な限り気配提示を試みますが、RFQがあまりに多い場合は気配提示に応じられない場合もあります。

・参加者、マーケットメイカー共に協力して市場を形成するためにも、実需に基づかないRFQの濫用はお控え頂くようお願い致します。

気配提示対象のイメージ

- 稼動当初は、JGBオプション、TOPIXオプション及び有価証券オプションの30銘柄程度を常時気配提示の対象とし、その他をRFQによる気配提示でカバーする予定です。
- 有価証券オプションは銘柄数が多いので次ページ以降で示す6グループに対してマーケットメイカーを指定します。



有価証券オプションメイク枠 1～3

メイク枠-1		メイク枠-2		メイク枠-3	
コード	対象有価証券名	コード	対象有価証券名	コード	対象有価証券名
8411	(株)みずほフィナンシャルグループ	7203	トヨタ自動車(株)	8306	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ
8802	三菱地所(株)	6301	(株)小松製作所	7751	キヤノン(株)
4502	武田薬品工業(株)	8604	野村ホールディングス(株)	5411	ジェイ エフ イー ホールディングス(株)
9501	東京電力(株)	4063	信越化学工業(株)	8766	東京海上ホールディングス(株)
9433	KDDI(株)	6501	(株)日立製作所	9020	東日本旅客鉄道(株)
5405	住友金属工業(株)	8801	三井不動産(株)	9984	ソフトバンク(株)
8591	オリックス(株)	8035	東京エレクトロン(株)	8001	伊藤忠商事(株)
8308	(株)りそなホールディングス	8053	住友商事(株)	4901	富士フイルムホールディングス(株)
8601	(株)大和証券グループ本社	7269	スズキ(株)	8403	住友信託銀行(株)
5201	旭硝子(株)	6762	TDK(株)	9101	日本郵船(株)
9531	東京瓦斯(株)	4062	イビデン(株)	7752	(株)リコー
4005	住友化学(株)	6326	(株)クボタ	9022	東海旅客鉄道(株)
9502	中部電力(株)	8755	(株)損害保険ジャパン	9735	セコム(株)
6988	日東電工(株)	4543	テルモ(株)	4911	(株)資生堂
1925	大和ハウス工業(株)	9613	(株)エヌ・ティ・ティ・データ	1928	積水ハウス(株)
8253	(株)クレディセゾン	9021	西日本旅客鉄道(株)	8725	三井住友海上グループホールディングス(株)
1812	鹿島建設(株)	4188	(株)三菱ケミカルホールディングス	9064	ヤマトホールディングス(株)
9005	東京急行電鉄(株)	7911	凸版印刷(株)	9506	東北電力(株)
1803	清水建設(株)	8574	プロミス(株)	3405	(株)クラレ
3861	王子製紙(株)	9062	日本通運(株)	6991	パナソニック電工(株)
6770	アルプス電気(株)	1801	大成建設(株)	8252	(株)丸井グループ
5901	東洋製罐(株)	5938	(株)住生活グループ	6479	ミネベア(株)
6592	マブチモーター(株)	4676	(株)フジ・メディア・ホールディングス	5012	東燃ゼネラル石油(株)
9404	日本テレビ放送網(株)	4716	日本オラクル(株)	4739	伊藤忠テクノソリューションズ(株)
1306	TOPIX連動型上場投資信託	1330	上場インデックスファンド225	※網掛け銘柄が継続Quote提示対象銘柄	
8951	日本ビルファンド投資法人				

有価証券オプションメイク枠 4～6

メイク枠-4		メイク枠-5		メイク枠-6	
コード	対象有価証券名	コード	対象有価証券名	コード	対象有価証券名
8316	(株)三井住友フィナンシャルグループ	8058	三菱商事(株)	5401	新日本製鐵(株)
8031	三井物産(株)	7267	本田技研工業(株)	6758	ソニー(株)
9437	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ	6752	パナソニック(株)	2914	日本たばこ産業(株)
3382	(株)セブン&アイ・ホールディングス	9432	日本電信電話(株)	7201	日産自動車(株)
4503	アステラス製薬(株)	4568	第一三共(株)	7974	任天堂(株)
6502	(株)東芝	7011	三菱重工業(株)	5713	住友金属鉱山(株)
6753	シャープ(株)	7731	(株)ニコン	6954	ファナック(株)
6902	(株)デンソー	6971	京セラ(株)	6367	ダイキン工業(株)
6503	三菱電機(株)	6702	富士通(株)	5108	(株)ブリヂストン
4452	花王(株)	6857	(株)アドバンテスト	5333	日本碍子(株)
4689	ヤフー(株)	2503	キリンホールディングス(株)	3402	東レ(株)
6701	日本電気(株)	7741	HOYA(株)	5802	住友電気工業(株)
9503	関西電力(株)	8267	イオン(株)	2502	アサヒビール(株)
4523	エーザイ(株)	6764	三洋電機(株)	8309	中央三井トラスト・ホールディングス(株)
2802	味の素(株)	5202	日本板硝子(株)	5001	新日本石油(株)
3407	旭化成(株)	7912	大日本印刷(株)	6861	(株)キーエンス
6273	SMC(株)	9532	大阪瓦斯(株)	4183	三井化学(株)
9508	九州電力(株)	6471	日本精工(株)	5801	古河電気工業(株)
1802	(株)大林組	6773	パイオニア(株)	8028	(株)ファミリーマート
6976	太陽誘電(株)	8113	ユニ・チャーム(株)	6806	ヒロセ電機(株)
9202	全日本空輸(株)	9737	(株)CSKホールディングス	5803	(株)フジクラ
3893	(株)日本製紙グループ本社	4661	(株)オリエンタルランド	2002	(株)日清製粉グループ本社
9301	三菱倉庫(株)	4631	DIC(株)	5706	三井金属鉱業(株)
6981	(株)村田製作所	6963	ローム(株)		
※網掛け銘柄が継続Quote提示対象銘柄				1615	東証銀行業株価指数連動型上場投資信託
				8952	ジャパンリアルエステイト投資法人

7. 理論価格・清算値段算出の仕組み

日中理論価格計算の仕組み

- 呼値可能値幅やToSTNeT取引の付合わせ等、Tdex+では日中のオプション理論価格を使用することが多くなります。ただし、チェック用の値幅は十分広くとってありますので、参加者の皆様が日中理論価格の存在を意識することは多くないと思われます。
- 以下は日中の理論価格計算の概要を参考としてまとめたものです。
- TOPIXオプションは本来は指数を原資産として使うべきですが、寄付前やイブニングセッション時間帯に指数が配信されないことから、先物を原資産として代用し、先物オプションとして理論価格計算を行います。

	JGBオプション	TOPIXオプション	有価証券オプション
理論価格モデル	BS式(先物オプション)	BS式(先物オプション)	BS式(現物オプション)
原資産	JGB先物 中心限月+スプレッド方式	TOPIX先物期近	対象株券
原資産価格	原則として約定値段、特別気配、最優先気配仲値のうち、直近に相場配信されたものを使用		
金利	期間3ヶ月金利(現行は2ヶ月金利)	期間3ヶ月金利(現行と同様)	
配当	—	—(先物オプション方式のため考慮しません。)	対象有価証券単位の予想配当率
残存日数	残存日数は現行+1日となります。また、取引最終日5営業日ほど前を目安に残存時間単位で計算を行う予定です。		
ボラティリティ	銘柄単位で計算されたボラティリティ(詳細は後述)		

ボラティリティ算出の概要

- ボラティリティは銘柄単位で計算されることとなります。TOPIXオプションや有価証券オプションについては、これまで対象原資産単位で算出していましたので、より木目細かくボラティリティを算出することになります。
- ボラティリティ算出はシステムが自動で計算しているものを東証オペレータがリアルタイム監視を行い補正していく方法を取ります。
- 自動計算処理はオプション約定ではなく売り買い最優先気配のインプライドボラティリティの更新により行われ、さらに1銘柄のIV更新が他限月・他銘柄のボラティリティに影響を与えます。
- 自動計算と人間の監視を組み合わせることで、概ね市場で観測されているボラティリティカーブを捕らえることができると考えており、これはLiffeにおいて取られているのと同様の方法です。
- 自動計算の対象銘柄や具体的な調整の方法は稼動前後の状況等も勘案しながら適宜見直して参ります。

清算値段計算の仕組み

- 以下は清算値段計算の概要をまとめたものです。
- ボラティリティは原資産の立会終了近辺のいずれかの時間のものを使用し、不適切と判断する場合は手動で修正を行う場合もあります。

	JGBオプション	TOPIXオプション	有価証券オプション
理論価格モデル	BS式(先物オプション)	BS式(現物オプション)	BS式(現物オプション)
原資産	受渡対象JGB先物	TOPIX指数	対象株券
原資産価格	先物清算値段	指数終値	対象株券終値等(特別気配、終値、基準値段の採用順)
金利	期間3ヶ月金利(現行は2ヶ月金利)	期間3ヶ月金利(現行と同様)	
配当	—	市場1部予想配当率	対象有価証券単位の予想配当率
残存日数	残存日数は現行+1日となります(e.g. 取引日付 5/20, 満期日5/29の場合は29-20+1=10日)。また、取引最終日5営業日ほど前を目安に残存時間単位で計算を行う予定です。		
ボラティリティ	銘柄単位で算出されたボラティリティ(市場気配によるIVの範囲外の場合は当該IVに修正)	銘柄単位で算出されたボラティリティ	



8. その他の機能

ToSTNeT取引

- ITM単位で取引するため、異なる参加者間の取引では、事前条件交渉の際に相手方ITMや取引用パスワードを確認しておく必要があります。
- 全ての取引に同じ取引用パスワードを使うこともできますが、入力ミスによる誤約定を避けるためにも、相手方ITM単位、できれば取引単位でパスワードを変えることをお勧め致します。
- なお、ToSTNeT取引の承認は東証側オペレータの手作業により行っておりますので、約定処理が遅れる場合もあることをご了承ください。
- 異なる参加者間で対当していない場合は取消しが可能です。

	同一参加者間取引 (Block取引)	異なる参加者間取引 (Asset Allocation取引)
付合わせの条件	下記内容が入力されていること <ul style="list-style-type: none"> ■ 銘柄情報 ■ 価格 ■ 数量 ■ 自己委託区分 	下記内容が入力されており、自己委託区分以外の内容が相手方取引内容と整合性が取れていること <ul style="list-style-type: none"> ■ 銘柄情報 ■ 価格 ■ 数量 ■ 自己委託区分(相手方との整合性は考慮不要) ■ 取引相手ITM ■ 取引用パスワード ■ 売り買いの別 — 売り買いを同時に指定しないでください(万が一指定した場合は発注ITMによるBlock注文として扱われます)。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ ストラテジーはデルタニュートラル含めて不可です。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ストラテジーはデルタニュートラル含めて不可です。 ■ 取引理由が入力されている必要があります(詳細は別紙参照)。
制度上の変更点	直近約定値段等を、価格チェックに使用していましたが、理論価格ベースに切り替えます。	

オーダーブックマネジメント (OBM) の概要

- 原則、注文・約定に関する通知は、発注を行ったITMのみ受け取ることができます。
- しかしながら、オーダーブックマネジメントの機能を利用する事により、発注を行なったITM以外のITM(監視ITM(MTM))も、注文・約定に関する通知を受け取ることができます。
- MTMは、注文・約定に関する通知を受け取るだけでなく、監視先ITMの注文を変更・取消することもできます。
- さらに、監視先のITMをログアウト・ロックアウトすることもできます。
 - ログアウトする事により、監視先ITMのGTCは除く注文を取り消すこととなります。
 - ロックアウトする事により、監視先ITMの全ての注文(GTC含む)を取り消すこととなります。
- ただし、MMO(マーケットメイク注文)については、通知を受け取ることができませんので、ご注意ください。

オーダーブックマネジメント (OBM)の概要

- MTMについては、参加者からの申請に基づき、発行いたします。その際、付与する機能について次のとおり選択することができます。
 - 権限① 注文・約定両方の通知を受け取るか、約定のみ受け取るか否か
 - 権限② ログオフ/ロックアウトする権限をつけるか否か

[機能詳細と権限対応表]

権限①	権限②	監視先ITMの行為に関する通知の受領				MTMによる、監視先ITMの注文の変更取消し	MTMによる、監視先ITMのログオフ・ロックアウト
		発注 (新規/変更/取消)	ハンド オーバー	ログオフ/ ロックアウト	約定		
全て	あり	○	○	○	○	○	○
	なし	○	○	○	○	○	
約定のみ	あり			○	○		○
	なし			○	○		

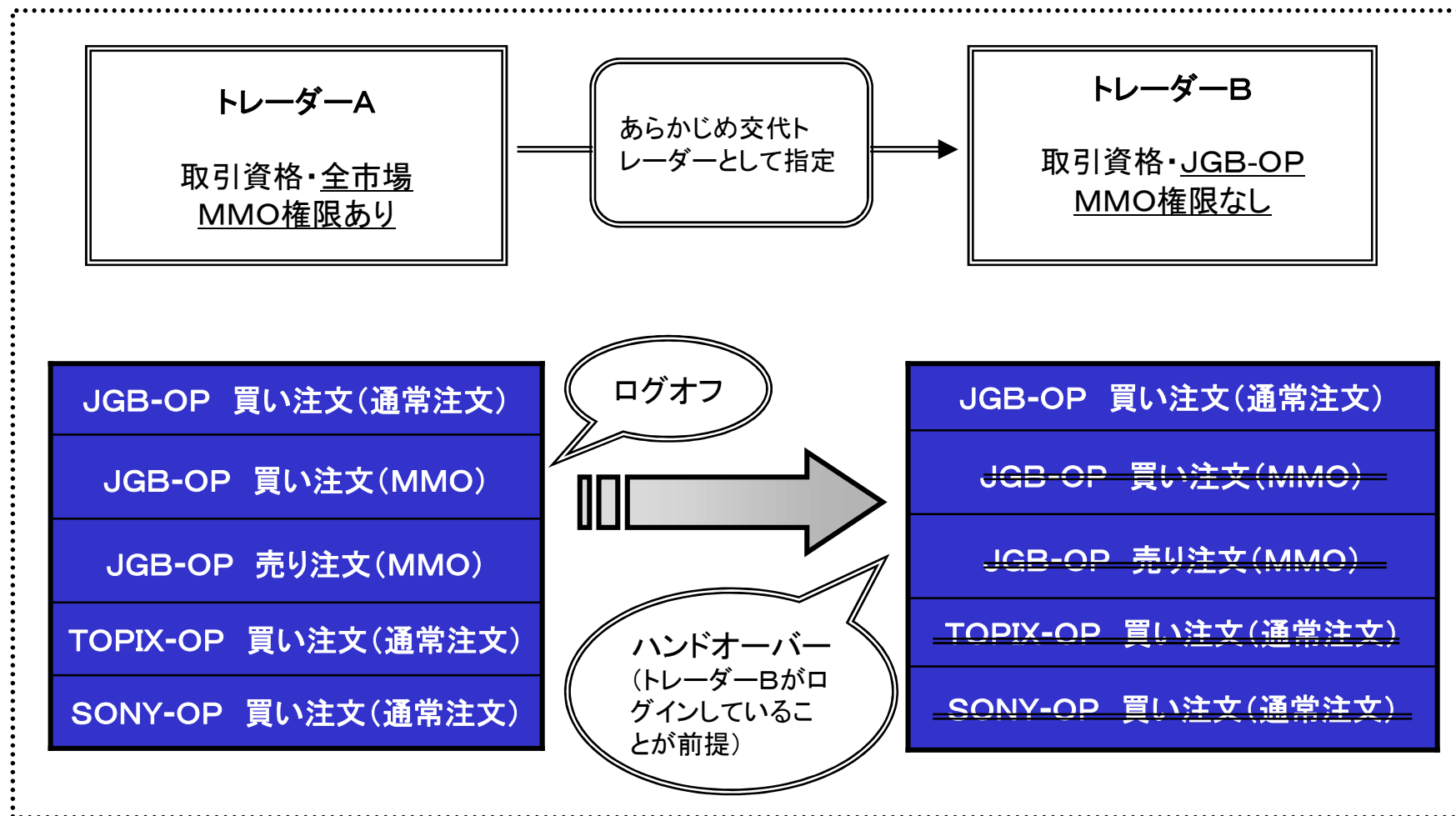
ログオフとハンドオーバー

- ITMのログオフを行うと、GTC注文以外の全ての注文が取り消されます。
 - 発注したものの、取引所の承認待ちで未約定のToSTNeT(ブロック・アセットアロケーション)の注文、相手方注文待ちにより、非対当のToSTNeT(アセットアロケーション)については、取り消しの対象外です。

- 交代トレーダー(ITM)を指定しておく事により、ログオフの際に、取り消されるはずの注文について、当該ITMに引き継ぐことができます(GTC注文はログオフ時も取り消されませんので、交代トレーダーには引き継がれません)。引継ぎ後は、交代トレーダーから注文の変更・取消しを行うことができます。

- ただし、交代トレーダーが、引き継ぐ注文に関する権限を持っていない場合、ログインしていない場合は、引き継がれません。
 - 例えば、債先OPにのみ取引権限を有するITMに、TOPIX-OPの注文は引き継げません。
 - MMOを発注する権限を有しないITMに、MMOは引き継げません。

ログオフとハンドオーバーのイメージ



取引停止に関する留意点

- 取引停止は、原則として、マーケットステートを、Halt (売買停止)にすることにより行います。
- Haltになった場合でも、発注済の注文が取り消されることはありません。
- しかし、新規注文の発注等ができないため、原則として、すみやかにPre-open(注文受付)へマーケットステートを移行します。寄付き前や場間でHaltとした場合は寄付き処理が終了した後にPre-openとします。
- 取引再開は、マーケットステートをOpen(立会)に移行する事により行います。

Haltの詳細

- ・ 新規発注 → 不可
- ・ 値段訂正・GTCの有効期日訂正 → 不可
- ・ 発注済注文の取消し・数量減少の訂正 → 可
- ・ ストラテジーの生成 → 可

- なお、緊急時においてはSuspendによる取引停止を行う場合もあり、この場合はGTC注文含めたすべての発注済の注文が取り消されます。

参加者において障害が発生した場合の留意点

- 参加者側に障害が発生した場合、これに伴いITMがログオフとなれば、自動的に注文は取り消されます。
- しかしながら、GTC注文については、ログオフとなっただけでは、自動的に取り消されません。また、障害中の参加者から取り消すことは困難であることが想定されます。
- 参加者において、当該注文が取り消すことができないと、不測の損害を被る可能性があるため、次の対応策について実施すべく検討を進めてまいります。
 - 株式及び現行の派生売買システムにおいては、障害時に参加者に御利用いただく障害時用端末を用意しておりますが、Tdex+においては、その用意がありません。そのため、本対応案を検討させていただくものです。

<対策案>

当取引所が、参加者からの書面の申請に基づき、ITMをロックアウトします。

- ロックアウトする事により、GTCを含めた全ての注文が取り消されます。

9. マーケットメイカー専用機能

デルタプロテクションの概要

- デルタプロテクションとは、マーケットメイカーがリスク管理のために使用する機能で、あらかじめ指定した数量以上のデルタリスクが発生した場合に、板上の注文をシステム側で自動キャンセルする機能です。

対象注文		<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定したITMから発注されたデルタニュートラルを除いた全注文が計算対象となります(指値、成行、寄付注文、バッチ,MMO、ToSTNeT)。
デルタ計算の方法		<ul style="list-style-type: none"> ■ 約定成立時点でホスト側で計算した理論デルタを用います。
累積デルタ数量の計算		<ul style="list-style-type: none"> ■ 約定成立数量 × 理論デルタ × 取引単位(※)でデルタ換算数量を計算し、これを累積計算します。 ■ 取引単位は有価証券オプションは対象株券の売買単位、その他のオプションは1が使用されます。 ■ 既にデルタ換算したポジションの再計算は行いません。
パラメータ	制限数量	<ul style="list-style-type: none"> ■ 累積デルタがここで指定した制限数量を超えた場合は以下で指定するアクションが取られます(同数量の場合は発動しません)。
	累積デルタ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 約定時の累積デルタは自動計算されますが、過去の約定分の自動アップデートは行いませんので、自社システム等で計算し適宜アップデートすることをお勧めします。
	アクション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 累積デルタ数量が、あらかじめ指定した制限値を超えた場合のアクションはWarn、Pull、Pull&Warn、Ignoreの4種類から選ぶことができます(詳細は後述)。

デルタプロテクションのアクション

- 下記が制限数量を超えた場合のアクションの説明となります。

Warn	<ul style="list-style-type: none"> ■ 警告メッセージを返しますが注文のキャンセルは行いません。
Pull	<ul style="list-style-type: none"> ■ 警告メッセージなく注文の自動キャンセルを行います(ToSTNeTの注文はキャンセルされません)。 ■ キャンセル後は新たな発注を受け付けなくなりますので、再度発注する場合は一旦機能をOffにしてください。 ■ Uncrossingで制限数量を超えた場合は次の約定後に自動キャンセルされますのでご注意ください。
Pull & Warn	<ul style="list-style-type: none"> ■ 警告メッセージを返し、かつ、注文の自動キャンセルを行います(ToSTNeTの注文はキャンセルされません)。 ■ キャンセル後は新たな発注を受け付けなくなりますので、再度発注する場合は一旦機能をOffにしてください。 ■ Uncrossingで制限数量を超えた場合は警告メッセージは出ますが、自動キャンセルは次の約定後に行われますのでご注意ください。
Ignore	<ul style="list-style-type: none"> ■ 何もしません。一時的に機能を使用しない場合などに設定してください。

- なお、デルタプロテクションについては、詳細な機能検証によって、昨年の参加者説明会の以下の説明が誤っていたことが明らかとなりました。お詫びして訂正させていただきます。
 - 一定時間内の約定を計算すると説明していましたが、実際には時間の条件設定はできません。
 - バッチ注文は対象外と説明していましたが、実際には対象となります。

MMのパフォーマンス評価

- 以下の注文がパフォーマンスの計測対象となりますのでご注意ください(MOOや成行注文は対象外となります)。
 - 指値注文、**MMO**(マーケットメイク注文)
 - 複数の指値注文をバッチ注文機能を利用して一括で発注する方法

- GTC、IC、MV、CVといった特殊条件の指定を行うと正しく計測を行えませんので、発注にあたっては特殊条件を使用しないでください。

- パフォーマンスの評価レポートに関しては月2回を目処に各マーケットメイカーに対して提示することを予定しております。

- レポートのフォーマットについては検討中ですので、決定次第マーケットメイカーの皆様にご通知させていただきます。

MMOの機能概要

- MMOには以下の特徴があります。

MMO

- オプションの売り買い指値注文を1銘柄に1組ずつ、最大65組(買:65注文、売:65注文)発注することができます。
- 単純な指値注文のみを組み込むことができます。
- 個別銘柄だけでなくストラテジー銘柄の発注にも使用できます。
- 同じオプション銘柄には売り買いそれぞれ1注文ずつしか発注できません。誤って組み込んだ場合はリストの最後の注文のみが有効となります。
- 1つのMMO内で即時約定するような売り買い指値を指定することはできません。
- 新たな指値でMMOを発注すると自動的に古いMMOは新たな注文と差し替えられます。



別紙

参考：申告用項目－第2回説明会資料より再掲

- ToSTNeT取引及びデルタニュートラル取引において求められる申告については下記のとおり対応をお願い致します。

項目名	型	桁数	設定内容
CustomerReference	文字	14	<p>下記のとおり設定する。 <u>※当該項目は取引所への報告用に使用しますので、下記以外の目的で値を設定しないで下さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • ToSTNeT取引で異なる参加者による相対取引を行う場合(つまり、LiffeTradeSubmitExPitTrade関数にてAsset allocationを使用する場合) ⇒'0'(ロールオーバー)、『1'(ベース)、『2'(建玉集約)、『3'(組合せ取引)、『9'(その他)のいずれかを設定する。 • 株式と株券オプションを組み合わせたデルタニュートラル取引を行う場合で、当該取引が信用取引の場合 ⇒'A'(信用新規)、『B'(信用弁済)を設定する。 <p>※当該コード値は当該項目のどの桁に入れても構いません。 ※両者を同時に入れる必要がある場合は、順序は問いません。 (例:『1A』、『A1』どちらでも構わない。※ただし、現在の制度では両方のフラグを同時に設定することはありません)</p>

参考：MMO及びバッチ注文のロットルー 第2回説明会資料より再掲

- 自社開発参加者、ISVのクライアントアプリケーションがTdex+へ送信できるメッセージ数および注文件数は、下記のとおり制限を行う予定です。

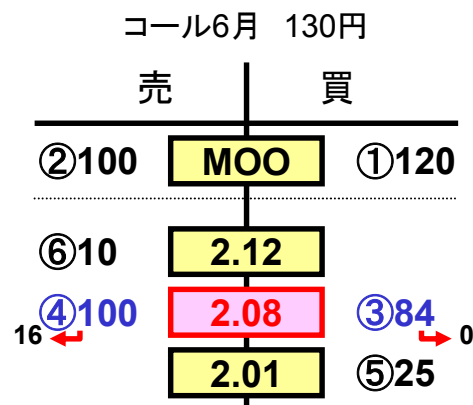
#	制限内容	数量	
1	1ITMが1つの原資産あたり送信できる注文メッセージ数	4	
2	1ITMが送信できる全メッセージ数	100	
3	1つのマーケットメイキングオーダー(MMO[※1])に含めることのできる注文(気配提示)数。	65×2 (売:65、買:65)	
4	1つの注文メッセージに含めることのできる最大注文件数(バッチオーダー[※2]を使用した場合)	マーケットメーカー	16
		マーケットメーカー以外	4
5	1つの注文メッセージに含めることのできる最大注文変更件数(バッチオーダー[※2]を使用した場合)	マーケットメーカー	64
		マーケットメーカー以外	4
6	1つの注文メッセージに含めることのできる最大注文取消件数(バッチオーダー[※2]を使用した場合)	64	

※1：1つの注文メッセージに売気配、買気配を複数ふくめることができる機能。マーケットメーカーのみ利用できる。

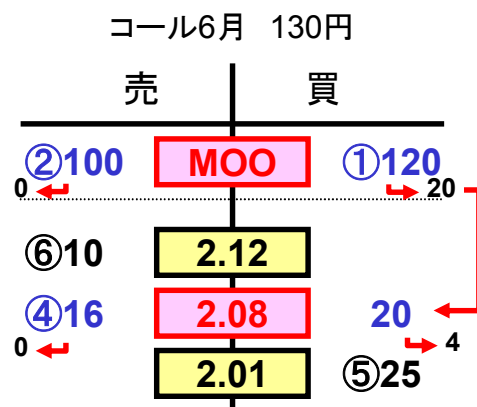
※2：1つの注文メッセージで複数の同一原資産に対する注文を行える機能。

別紙：寄付処理の例－指値注文と寄付き注文

寄付処理の具体例(1)



Step1 まず指値注文の処理を行います。③と④の注文が価格2.08で84単位約定し始値となります。注文④は16枚が未約定注文として残ります。



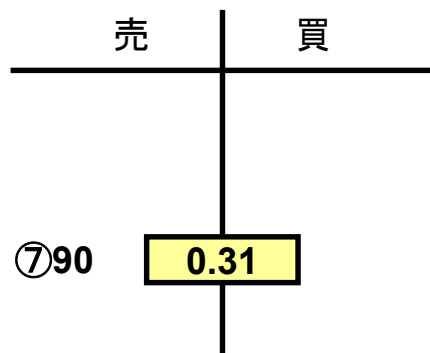
Step2 次に寄付注文(MOO)の処理を行います。寄付注文はまずMOO同士での付合わせが試みられますので、①と②の注文がStep1での約定値段である価格2.08で100単位約定します。

したがって、このケースでは100枚のMOOは始値で約定することとなります。その後、残った20単位のMOOは価格2.08の買い指値注文に転換され、④の売り注文と約定して4単位が板に残ることになります。

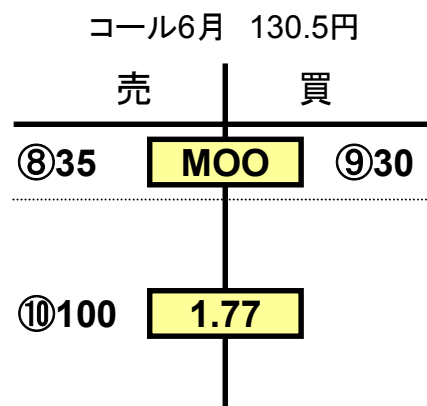
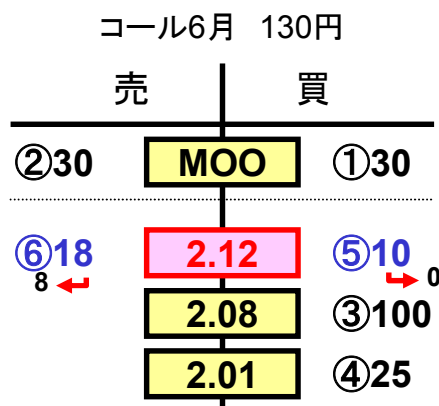
別紙：寄付処理の例－指値注文、インプライドインと寄付き注文

寄付処理の具体例(2)

コールスプレッド (800買い－825売り)



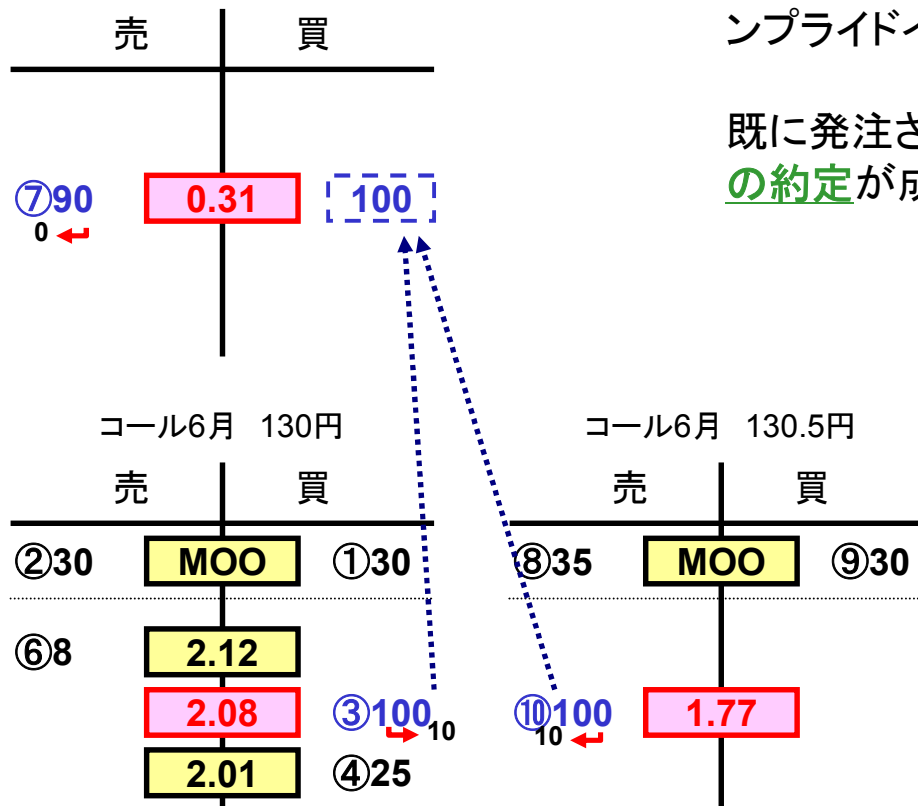
Step1 まず指値注文の処理を行います。コール6月130円で⑤と⑥の注文が価格2.12で10単位約定し、これが始値となります。注文⑥は8単位が未約定注文として残ります。



別紙：寄付処理の例－指値注文、インプライドインと寄付き注文

寄付処理の具体例(2)

コールスプレッド (800買い－825売り)



Step2 次にインプライド処理を試みます。③と⑩の注文を組み合わせるとコールスプレッドに**価格0.31**でインプライドインの買いを作ることができます。

既に発注されていた⑦と約定し、**価格0.31**で**90単位**の約定が成立します。

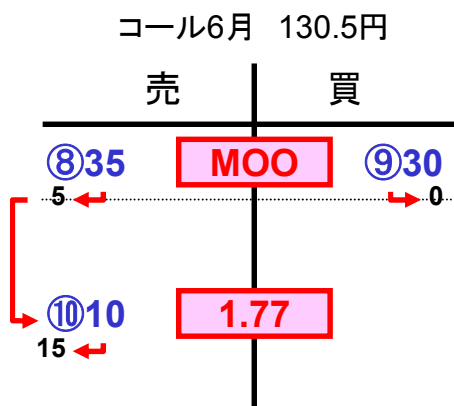
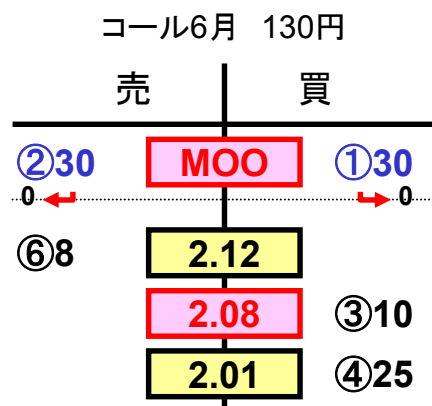
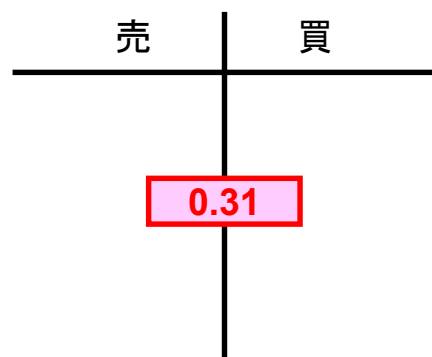
ストラテジーの構成銘柄に関しては、以下の約定が成立したことになり、コール6月130.5円はこの約定が始値となります。

- コール6月130円 2.08円で90単位
- コール6月130.5円 1.77円で90単位－始値

別紙：寄付処理の例－指値注文、インプライドインと寄付き注文

寄付処理の具体例(2)

コールスプレッド (800買い－825売り)



Step3 次に寄付注文(MOO)の処理を試みます。
①と②及び⑧と⑨を約定させます。

<コール6月130円 ①と②>
指値約定値段2.12とインプライド値段2.08がありますが、指値約定値段がある場合は、この**2.12**で約定します。**約定数量は30単位**となります。

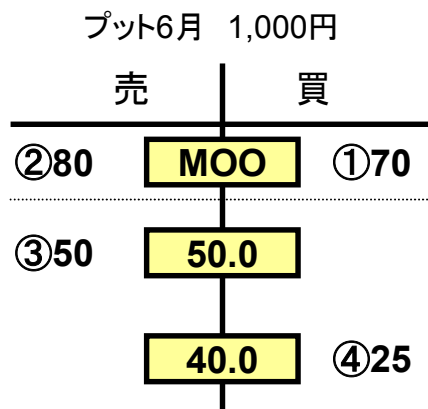
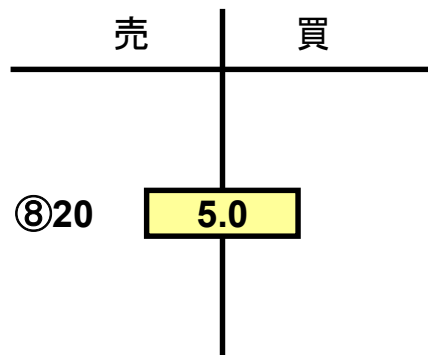
<コール6月130.5円 ⑧と⑨>
指値約定値段も、売り買い指値の仲値もありませんので、インプライド値段**1.77が約定値段**となります。

約定数量は30単位で、MOO売りで残った5単位は1.77での指値注文に変換されて板に残ります。

別紙：寄付処理の例－最優先気配、インプライドインと寄付き注文

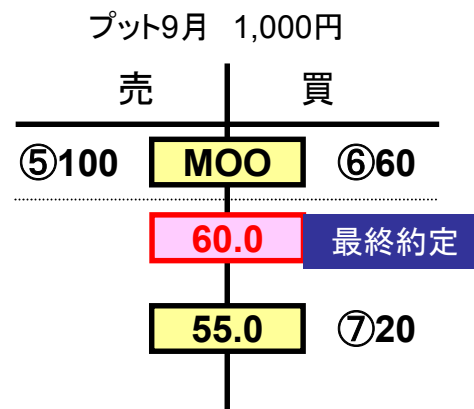
寄付処理の具体例(3)

プットカレンダーズプレッド
(9月1,000円買い－6月1,000円売り)



前提 後場の立会開始時における例です。

- プット9月 1,000円 前場の最終約定値段 60.0円
- プット6月 1,000円、プットカレンダーズプレッド 前場約定値段なし

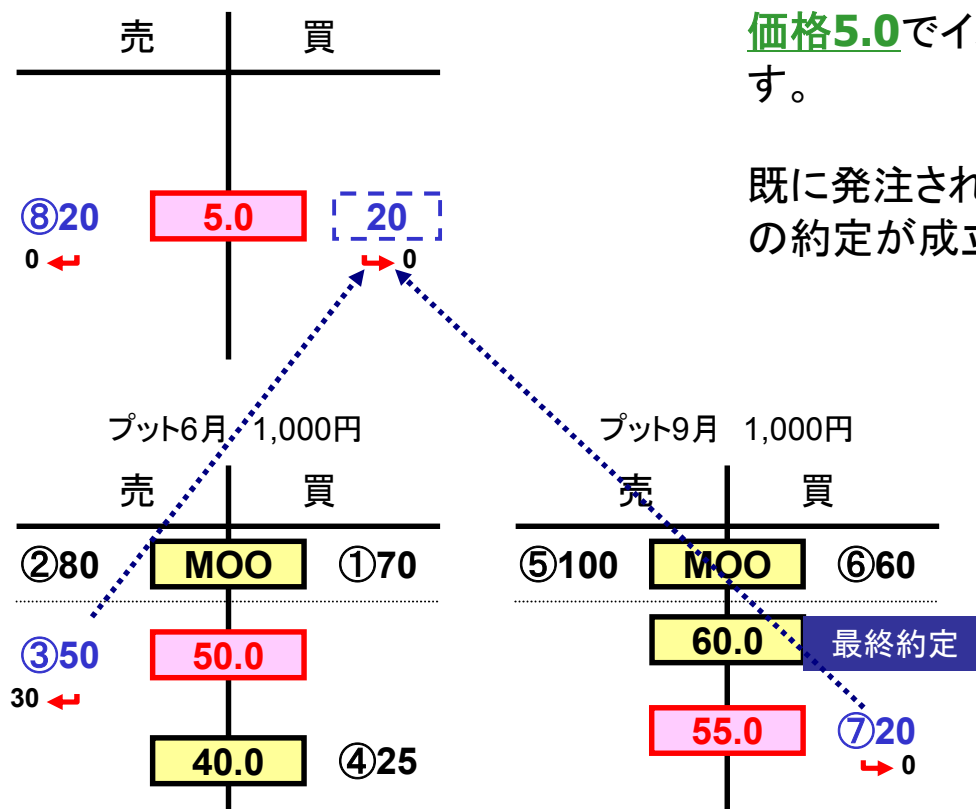


Step1 まず指値注文の処理を試みますが、この例ではストラテジーを含むすべての銘柄において、約定できる指値注文がありません。

別紙：寄付処理の例－最優先気配、インプライドインと寄付き注文

寄付処理の具体例(3)

プットカレンダーズプレッド
(9月1,000円買い－6月1,000円売り)



Step2 次にインプライド処理を試みます。③と⑦の注文を組み合わせるとプットカレンダーズプレッドに**価格5.0**でインプライドインの買いを作ることができます。

既に発注されていた⑧と約定し、**価格5.0**で**20単位**の約定が成立します。

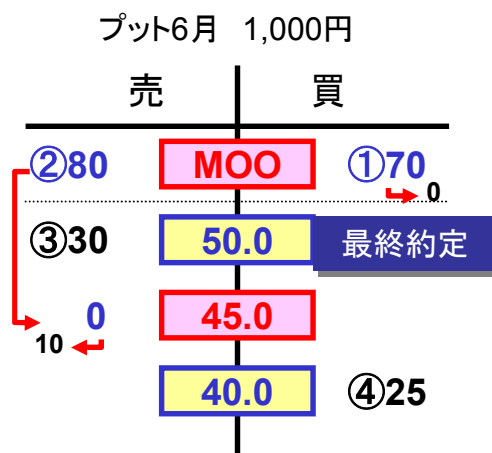
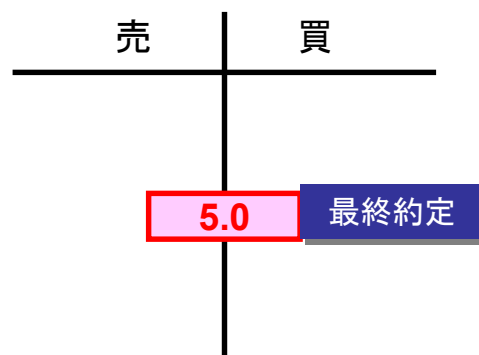
ストラテジーの構成銘柄に関しては、以下の約定が成立したことになり、当該値段が後場の始値となります。

- プット6月1,000円 50.0円で20単位－始値
- プット9月1,000円 55.0円で20単位－始値

別紙：寄付処理の例－最優先気配、インプライドインと寄付き注文

寄付処理の具体例(3)

プットカレンダーズプレッド
(9月1,000円買い－6月1,000円売り)

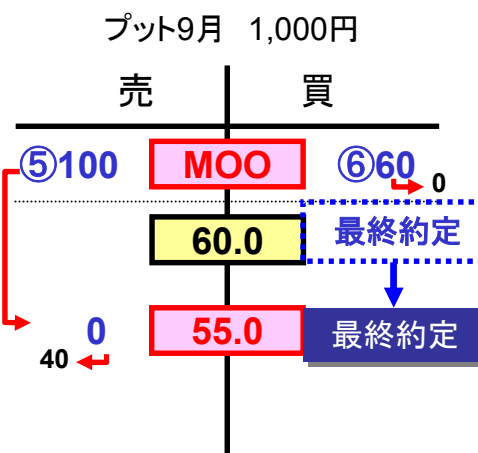


Step3 次に寄付注文(MOO)の処理を試みます。①と②を約定させます。

<プット6月1,000円 ①と②>

直前の約定値段はインプライドインによる価格50.0円ですが、最優先呼値の仲値のほうが優先順位が高いため、③と④の最優先呼値の仲値45.0円で約定します。

約定数量は70単位で、MOO売りで残った10単位は45.0円で指値注文に変換されて板に残ります。



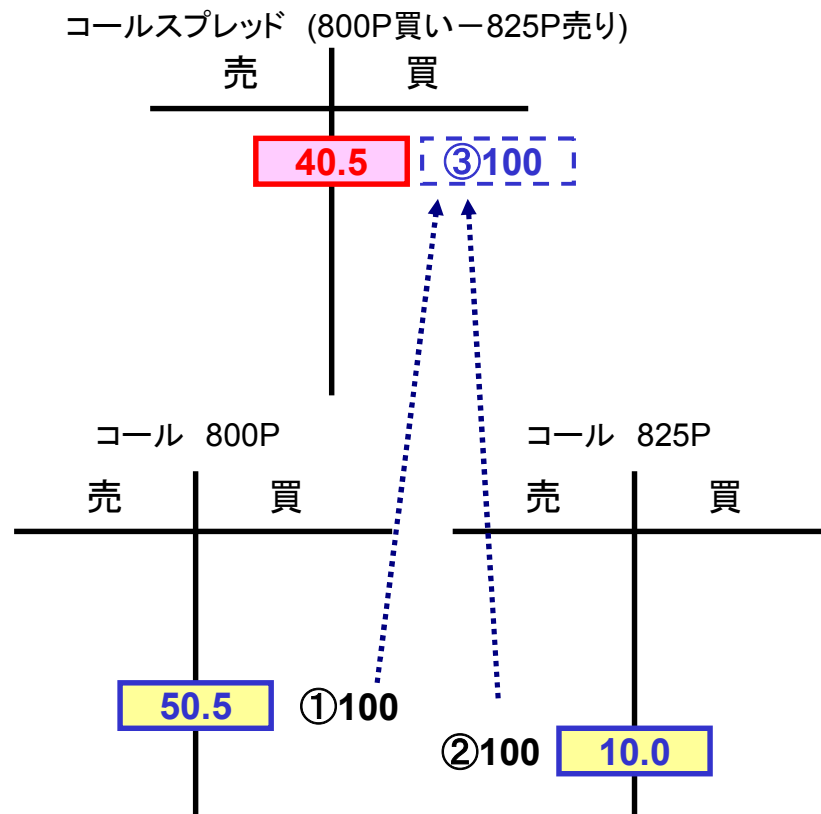
<プット9月1,000円 ⑤と⑥>

インプライドインにより価格55.0円で20単位約定されたため、最終約定値段は前場の最終約定値段ではなく、インプライドインの55.0円で約定します。

約定数量は60単位で、MOO売りで残った40単位は55.0円で指値注文に変換されて板に残ります。

別紙: インプライドインの応用例－呼値の優先順位

インプライドイン呼値の優先順位



①投資家Aが個別銘柄(権利行使価格800P)に価格50.5の買注文100単位を発注します。

②投資家Bが個別銘柄(権利行使価格825P)に価格10.2の売注文50単位を発注します。

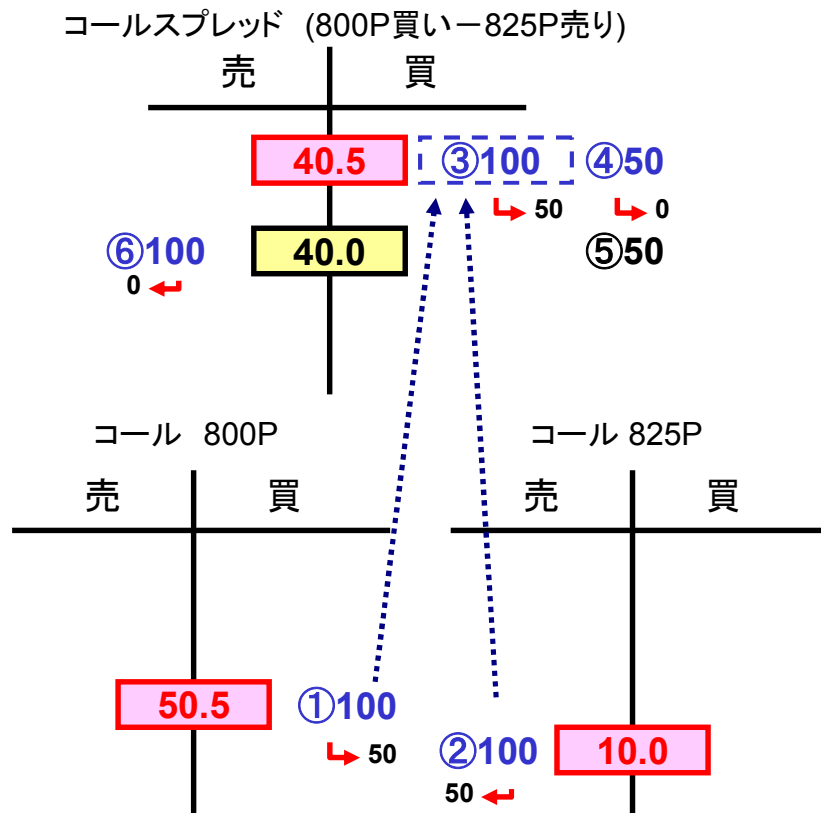
③反対注文がないのでインプライドインはまだ発生しませんが、下記のように仮のインプライドイン呼値を計算することができます。

$$\text{呼値} = 50.5 - 10.2 = 40.3$$

$$\text{数量} = \text{ストラテジーを構成できる数量} = 100$$

別紙: インプライドインの応用例－呼値の優先順位

インプライドイン呼値の優先順位



ストラテジーに④⑤の順で買い注文が発注され、その後、⑥の売り注文が発注されます。

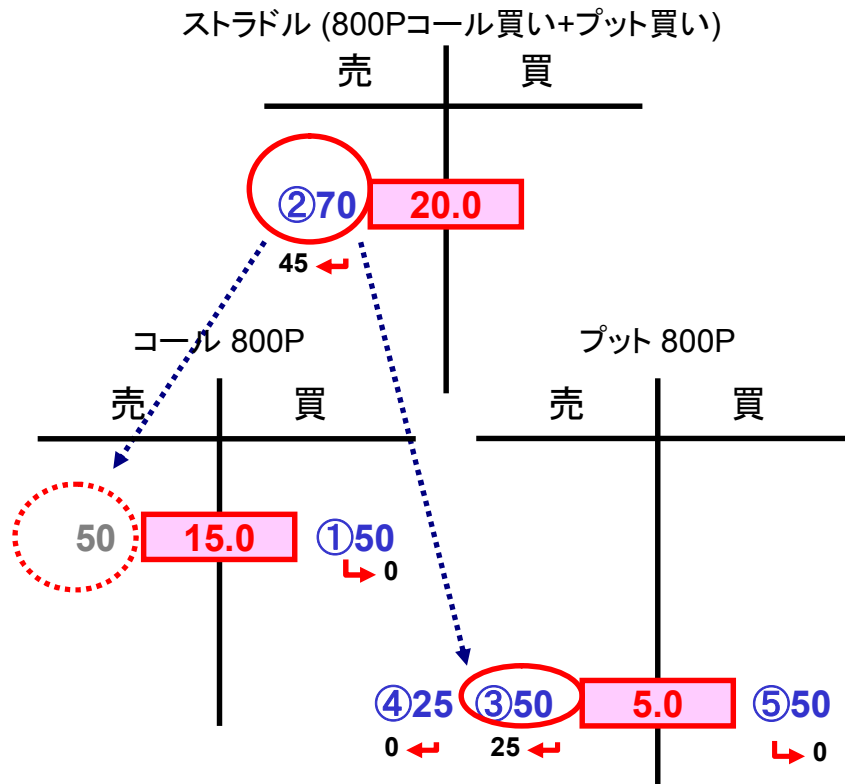
また約定可能な注文が来たので③のインプライドイン呼値が発生します。

③④は⑤よりも価格が優先しています。また、同根にインプライド呼値とストラテジー呼値がある場合は、常にストラテジー呼値が優先されますので、④が50単位最初に約定します。その後、③のインプライドインが50単位約定します。

インプライドインの元となる①②の注文は④よりも先に発注されていますが、インプライド注文の優先順位は④よりも劣ることにご注意ください。

別紙：インプライドアウトの応用例－呼値の優先順位

インプライドアウト呼値の優先順位



①②の順で注文が入ると③のインプライドアウト呼値が発生します。

ここで、反対注文の⑤が入ってくる前に④の個別銘柄注文が入ってきたとします。

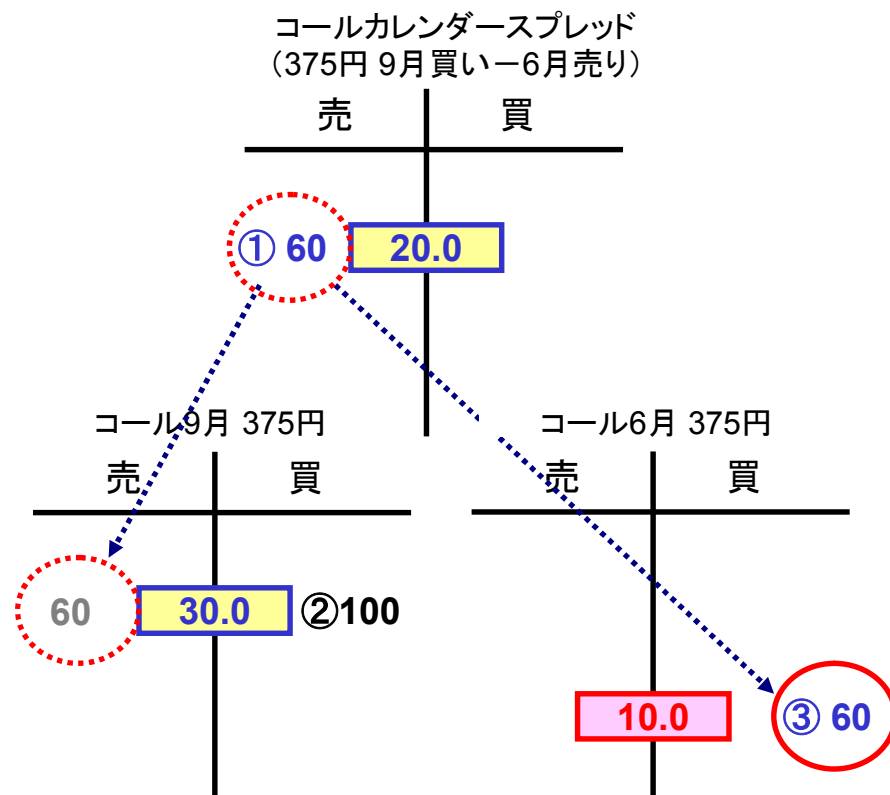
インプライドアウト呼値と個別銘柄呼値が同じ値段にある場合、個別銘柄呼値が優先されますので、この場合は遅れて発注された④が先に約定することになります。

別紙：インプライドアウトの応用例－インプライドアウト同士の付合わせ

■ インプライドアウト呼値同士の付合わせ

- 同一銘柄に売り買いのインプライドアウト呼値が発生する場合があります。

<具体例>



① ストラテジー銘柄(コールカレンダー・スプレッド 6月－9月、375円)に価格20.0の売注文60単位を発注します。

② 個別銘柄(9月 375円)に価格30.0の買注文100単位を発注します。

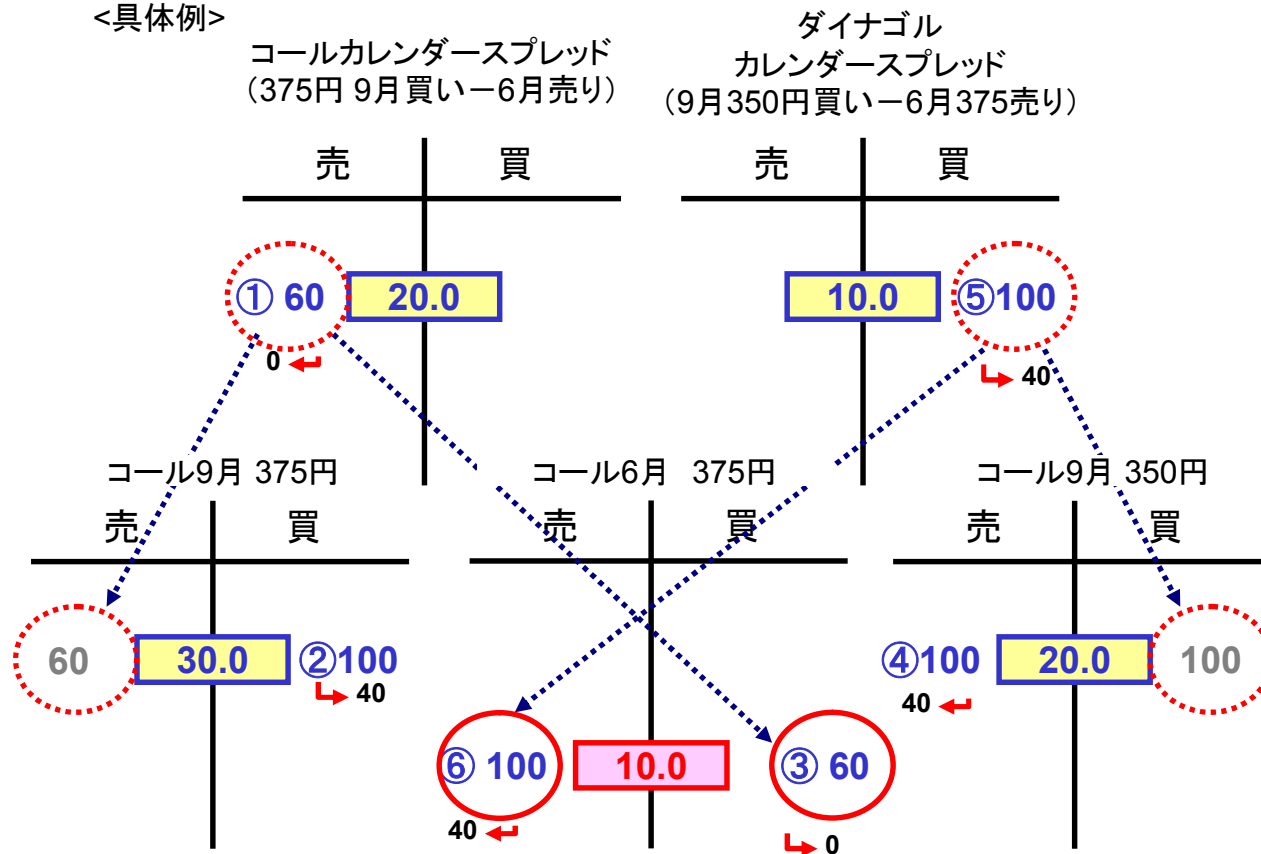
③ 個別銘柄(6月 375円)に反対注文を呼び込むために、価格10.0のインプライドアウト買呼値が注文60単位発生します。

別紙：インプライドアウトの応用例－インプライドアウト同士の付合わせ

■ インプライドアウト呼値同士の付合わせ

- 同一銘柄に発生したインプライドアウト呼値が約定可能な場合は、通常の注文と同様に約定します。

<具体例>



④個別銘柄(9月 350円)に価格20.0の売注文100単位が発注されます。

⑤ストラテジー銘柄(ダイナゴルカレンダーस्पレッド 6月375円ー9月350円)に価格10.0の買注文100単位が発注が発注されます。

⑥先ほどと同じ個別銘柄(6月375円)に価格10.0のインプライドアウト売呼値が100単位発生します。

⑦インプライドアウトの売り買い呼値が60単位約定します。

【本件に係るお問合せ先】

(株)東京証券取引所 派生商品部 総務企画グループ

Tel: 03-3665-1385 FAX: 03-3661-9113 e-mail: tdex-biz@tse.or.jp

Copyright © Tokyo Stock Exchange, Inc. 2008 All rights reserved.

免責事項:

当資料は、先物・オプション取引に関する制度の概要・市場状況等の説明のみを目的としたもので、先物・オプション取引の勧誘を目的としているものではありません。

なお、先物・オプション取引においては、各商品の価格の変動等により損失が生ずるおそれがあります。先物・オプション取引の利用においては、取引金額が顧客の差し入れる証拠金の額に比べて大きいため、差し入れた証拠金以上の損失が生ずるおそれがあります。相場の変動等により証拠金額に不足が生じた場合には追加差し入れが必要となります。

先物・オプション取引を行うに際しては、あらかじめお取引先の金融商品取引業者等より交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分にお読みいただき、商品の性質、取引の仕組み、手数料及びリスクの存在等を十分に御理解いただいたうえで、御自身の判断と責任で行っていただきますようお願い申し上げます。

当資料に掲載されている情報は平成21年10月現在の先物・オプション取引に関する制度の概要であり、今後、制度の改定等を行うことがあります。本資料の内容の正確性については万全を期しておりますが、情報の完全性を保証するものではありません。また、本資料の全部又は一部を当取引所に無断で転用、複製又は転載することを禁じます。